



後六巻

ル 4
3218
16





江戸名所圖會卷之六
岡陽之部目録

金龍山沙草寺 觀音堂 古法
 北条寺 慈覺大師遺摩檀之香師
 西宮松壽社 平岡寺 石の枕末由
 雷門 觀世音出現地
 十二月十八年の市
 沙草川
 法訪明神社
 徳園社 同社の
 鳥越の神社
 日向寺
 日輪寺
 海禪寺
 祝言寺

御形觀音堂
 榎寺
 浪杏八幡宮
 西福寺
 本願寺
 天徳院
 清水寺 觀世音
 長遠寺 同蓮太子

三浦神社
 大慈宗八幡宮
 第六天神社
 淨念寺
 報恩寺
 稱性院
 上宮太子堂
 幡隨意院

清水稻荷社
 洞魔堂
 鳥越里
 東漸寺
 誓願寺
 東光院
 除厄太子堂
 信州善光寺



昭和九年
七月六日
終末

永昌寺

廣徳寺

下谷稻荷社

下谷岡

東叡山山下の岩

六条天神社

常樂院

上野坂本口圖

養玉院

善喜庵圖魔堂

入谷庚申堂

小野照彦神社

金枝安樂寺

根岸圓光寺

養論西光寺

時多屋

不動堂法印の松

正燈寺

萬里小幡寓居之地

小幡熱田神社

本戸孝範第宅回廊

小幡東天王社

飛鳥神社

誓願寺

渡りの塚

子經大橋

光榮池

沼田延命寺

熊野権現社

富士湯問宮

湯問の淵

十二月村八幡宮

信守法師の泉

西行井法大師堂

大師加持水

響大の神社

餘木法陀如東

梅田の五院

不動堂

新日神の文

白旗塚

石濱城跡

檜場

思ひ川

石濱

牛頭天王洞

志保稻荷社

隅田川渡

石濱古戦場

正平合戦之圖

新尾不動堂

総泉寺

袈裟掛松

赤茅の系

好飛塚

鏡り池

法源寺

徳水鶴の系

今戸陶器師

東野先生墓

今戸八幡宮

慶養寺

志去山

長昌寺

日本堤

新吉原町

山谷堀今戸橋の端

聖天宮

玉脂鶴の河

山谷堀今戸橋の端

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

聖天宮

日本堤

新吉原町

金龍山淺草寺 傳法院と號す坂東順禮所第十三番目あり天台

宗少て東叡山に屬せり

按る小東鑑に建久三年壬子五月八日法皇四十九日の侍佛事小僧供と後せらるゝと其余下小僧元の中依草寺より七三日あり又因書小建長三年辛未三月六日依草寺一牛の如きもの忽然と出現し奔走の時小僧傍五十口より食堂に集會する所小僧の怪異を見て廿四人立所小病を愛し七人昇座小僧をよと記せり寺僧五十口とあると此の往古も大伽藍ありと云へる永祿二年小田原小泉宗茂の分限帳小依草寺宗茂分四拾貫九百文と附せらるゝあり

本堂 奉尊聖觀世音菩薩 世小僧の御長一寸八分と云れども古より秘佛なり

脇士 梵天帝釋 此二尊ハ行基大士の祀ありとあり 四天王 脇壇 右不動明王 左

愛染明王 後左右 三十三身像 其余堂内小僧の佛天と安坐す中にも寶頭盧

額 觀音堂 御拜の大明福州漳郡龍邑徐紹勳筆 筆跡ハ慈覺大師の似ありて靈驗いち志あり

額 絶無畏 外陣の家帯 深見玄仙筆 天井の乳あり小内陣天井の鳳凰後壁

額 絶無畏 外陣の家帯 深見玄仙筆 天井の乳あり小内陣天井の鳳凰後壁

額 絶無畏 外陣の家帯 深見玄仙筆 天井の乳あり小内陣天井の鳳凰後壁

額 絶無畏 外陣の家帯 深見玄仙筆 天井の乳あり小内陣天井の鳳凰後壁

額 絶無畏 外陣の家帯 深見玄仙筆 天井の乳あり小内陣天井の鳳凰後壁

松外松傳中伝群々考入園過

山月影雪光色々梵行寂寂

内陣の丸 右小掲印 聯 小畫の傳 孟寛の傳 あれともまけさけのしんく

古繪馬 脇壇左の方不動尊の前小かけをり世倍右法眼元信の筆

ありとのりハ誤り 寛政の始本堂修骨あり一頃狩野何某親是と影写す実小六七百

傳 往古此馬毎夜小額を板出く境内の草と喰あり

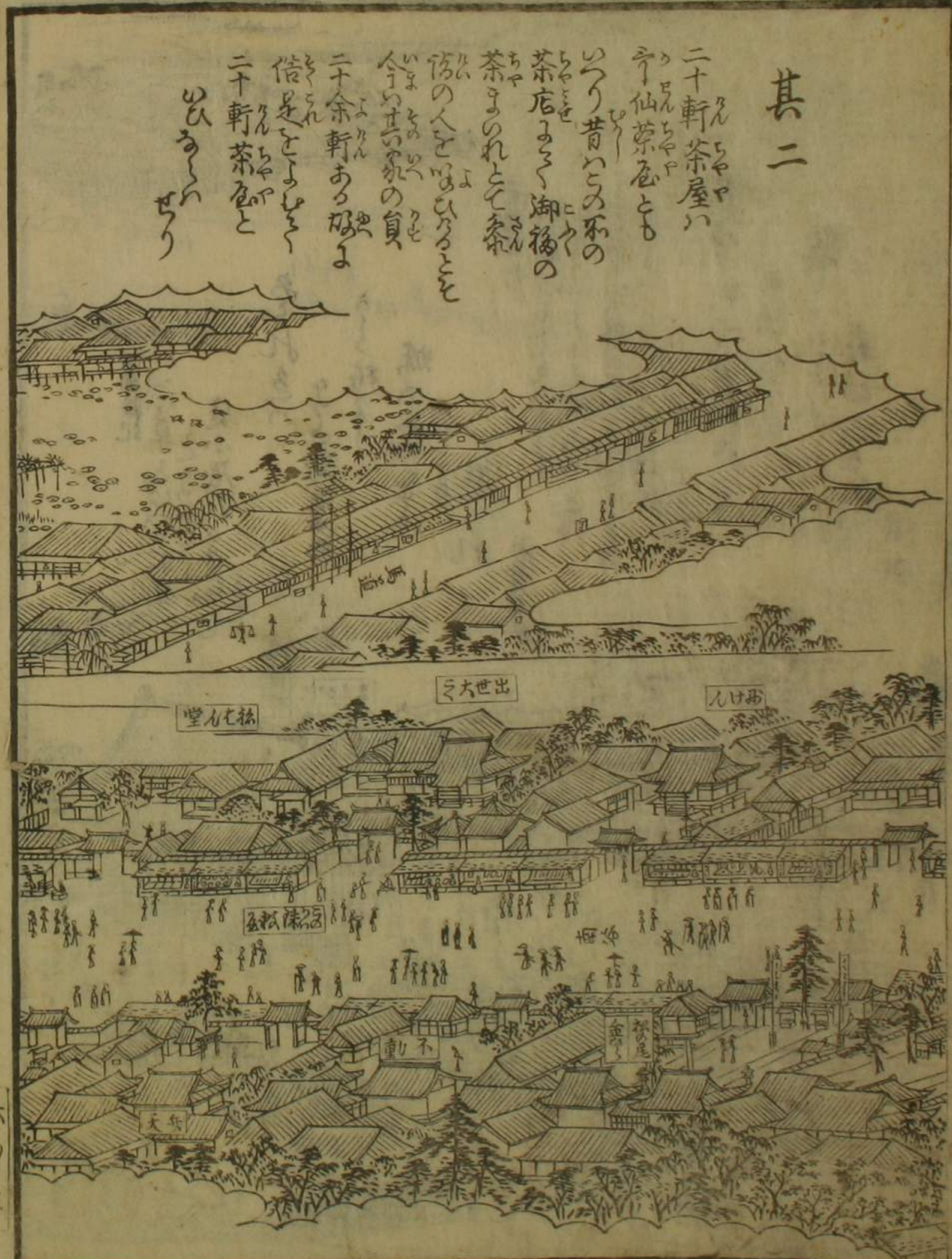
近と田畑ともあり 其頃尤甚五帛といふ名譽は彫工と頼とて曳繩と

書添しむ仍其後ハ此より止りりと 是れあり附會の説ありん曳繩も同時の物あり

後世書加へたるありんを系了依て辨し明命

歴代名画記卷第八小云く唐世祖の時楊子華といふ人あり嘗壁上小馬と畫く其了夜明て揮毫後録小曰聖宮門の西廡の小畫く石の人馬とれ流汗の迹あり慶曆中一文人馬のあり小畫く其夜羊蹄の者あり小畫く其夜羊蹄の者あり小畫く其夜羊蹄の者あり



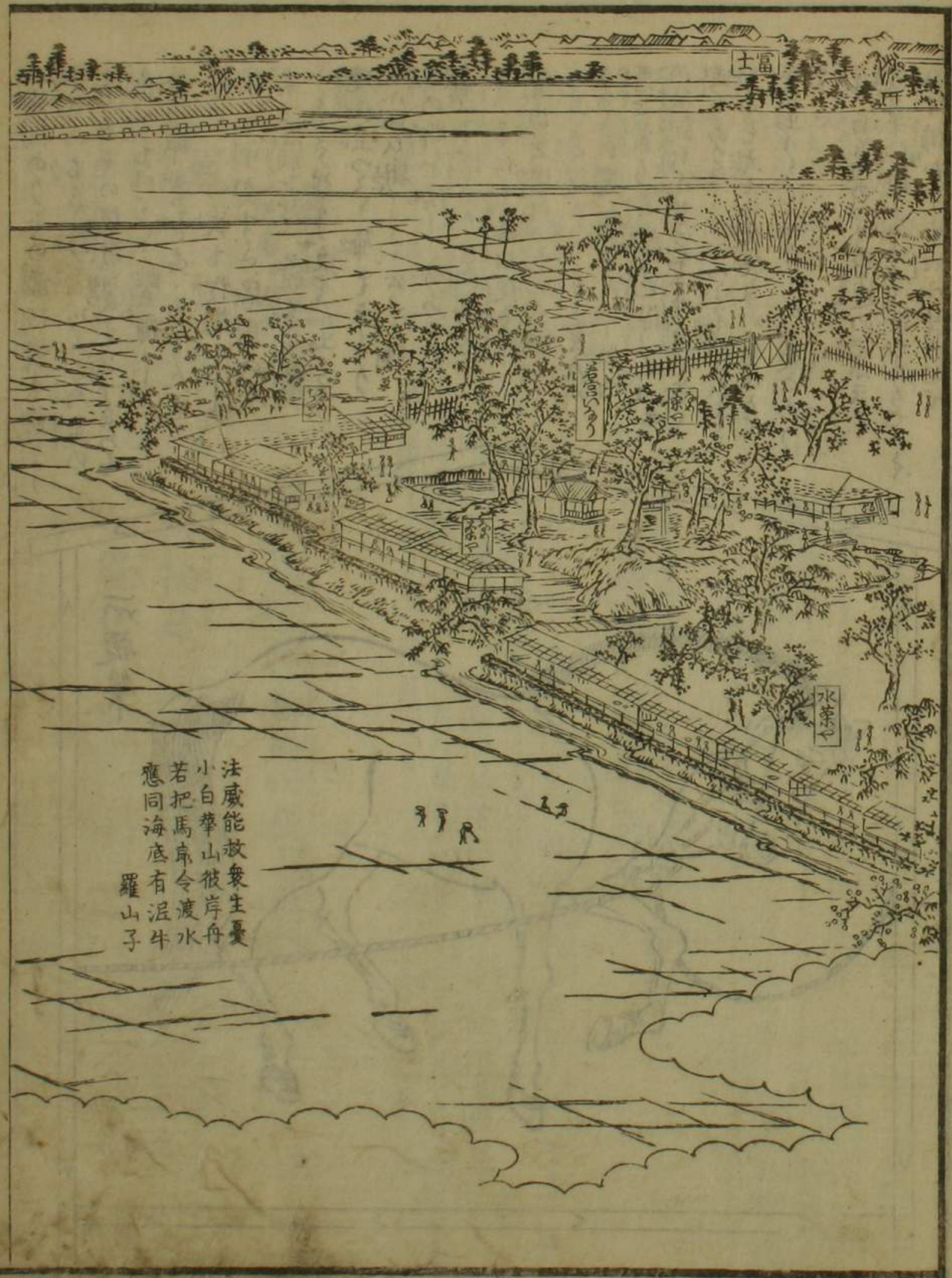






其
四





注威能救衆生憂
 小白華山彼岸舟
 若把馬京令渡水
 應同海底有泥牛
 羅山子



其
 五

一龍の息鐘を傳へし一樓のうらとあるは永和の回廊に亡ひし鐘のうらと至徳に年小あり
再ひ今あり所の洪鐘を傳へしとあるは至徳に年小あり

日本國武列豊島郡十束郷金龍山淺草寺洪鐘銘
夫鐘者震梵花之枯禪發驗檀之深省者矣南關浮
提各以音聲長爲佛事西郡勝地特開襟綉此道
場於是傳法聊持短契證者速趨解脫之門庭眼裏聞
扣龍澤之月耳根契證者速趨解脫之門庭眼裏聞
聲者則蘿山通之效果當時若不記者後代誰得識
哉銘成曰蘿山通之效果當時若不記者後代誰得識
未鑄成前響備九天新鑄成後福應大千
規模脫出當空高懸輕撞著鐘佛事邊
至徳二年卯五月初三日
勸進僧都海譽
勸進大和國道高
鑄工和泉守經宏

三社大権現社 奉堂より良の方小あり女師中知ちりい小人権前寶成此成等の靈を配に崇
御則寺の護法社とす世小三社の護法ともいり社解の慈覺大師の作と當社
の儀子の熱法寺より奉祀の三月十日開年小執行あり三社の未由の奉起の中詳されり
こ小界と傳の堂より荒澤不動多歡喜天等を安んず
額 三社大権現 隨喜樂院一品と遵法親王真蹟 慈覺稻荷祠 奉堂の後の方あり
り人勸請と未由の解系をいひこ小界と奉起の中詳されり
内陣小狩野周信筆の檜女慶の掛繪あり 十社権現祠 同野左の方小あり十人の草川を流すと
り未由の奉起の條下小つみひららと

念佛堂

同野小あり 所餘陀如來を奉起ると
昼夜二六時中念佛と唱ふ
十六日春詣群とちせり 額小向王殿と
あり朝鮮國眞陀金塔の筆あり 脫衣婆像 同堂中小あり慈覺大師の作
同野井の傍小あり世小長石地蔵と云又倍誤て小野小町り石塔と稱し私法大師の作りとも
之と共小湯より長をも文余同さそ尺六寸程厚も二寸ありあり寛保二年八月の景阿小
て今三段とせりり上の方の傳法院構の中稻荷の義初の傍小あり其狀上小比る薩摩の種字を
備中歴小念像の比るを刻し倒小女門是を致れず餘相あり又下の方小花籠小蓮花を挿す
左右小文字三十有九字と傳す其の文小云

脱衣婆像

比藏古碑

同魔堂

奉堂の乾の方小あり 願戸對
ハ運長の作り 毎年正月七月

爲一殊 四彌西佛現當二世諸願四満西佛敬白
右志者 四殊 由三昧 汝彌西佛先妻サ並男女二子
按より西佛と稱者三人あり是是非と云其の一は法上人の弟子小頭宮内成五帝を傳
盛政入道西佛又其二は海北幸親の男藏人通廣世小夫塔覺明と云是ちり後親善上人
の穿るとちり西佛と号と又其三小東鑑建長五年八月廿四日終玉一河辺庄の提と築
固るま中沙修あり奉起人を定らるとりる 糸小藤田三郎入及西佛と云る名と奉起り
ソのとく同名三人ありはつと是とす 凡て碑面年月を記されり詳不定は終後の訂正
と殊といふ

護摩壇之趾

同野慈覺權現の後の方極の中小あり 尊和帝天長年間慈覺大師東
遊北の路に過當寺小座り空前小持念するのあり三社権現の靈示ありと
伽藍と再傳ありて 永く止觀の法燈と云け中興の大祖と稱はげと一十座の護摩を傳
伽藍人の法の發願と云りあり

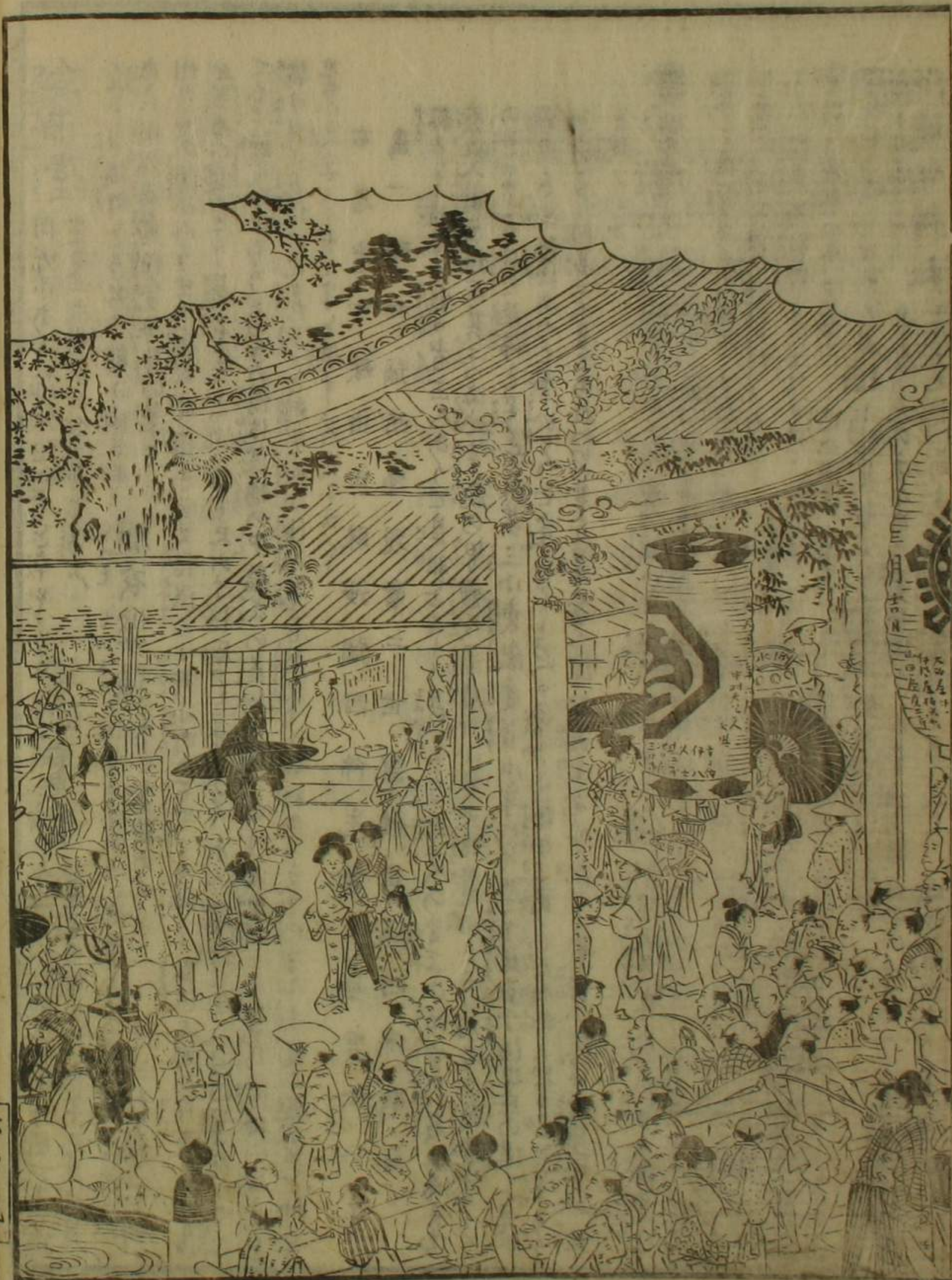
護國殿

同野小あり 大光明の像あり 小自然木の
寶永十九年二月の炎上小燒廢り

洪鳴明神社

奉堂の左の方小あり 昔此地小
東照大権現の所宮あり 一頃の護摩堂なり
寶永十九年二月の炎上小燒廢り
二月十九日門前より出火と其時ありとて 脚宮燒亡あり 小依

六月十五日
祭禮之圖





御城惣持葉山、御近衛ありて其係(此社)と稱情す共、御宮あり、地々この御堂の
 後の方より人の儲んをどきく位と結ぶてあり、傍の六角堂小地蔵と名を是也、
 御堂あり、一の作供財やと則堂のりき井あり又社前の石樹も甚俊小森なり、傍の小祠あり
 石の尊子六黒のお像のとも小私法大師の作なりといひり
 鏡塚辨財天祠、因河小あり末法薩羅、例幣使松、因河御も洗洗のからまらにありて
 禮小依、例幣使泰向の記昔よりこのころりて歸路の日ハリぬくとら比み、休息あり、程
 此所小、御宮あり、一板小のこことと今、谷田小、とるなり
 西宮稲荷祠、山門の前後の方面あり、山地主の神も、草の澤より、さそに、
 稻系と千束稲系といひり、是と上千束稲系と稱し、昔、忍持村小あり、この
 さつといひり、傍の小頓河法師の他、北九の林係と名す又、同、九の方面小石地蔵あり、折
 りの因果とあり、念をなす、因果
 平内兵衛像、二王門の茶右の方面小あり、平内を以り
 青山主膳といひり、人の旅士とて、強勇の人もあり、と云、後、平内、道人、正三、徳太、の門人となり、
 禅學を傳へ、則此石像も、二王門の神相、と、平内を以、上、前、小、と、造、ら、り、と、世、の、平、内、と、
 稱す、大、ち、り、あ、り、ち、り、折、邊、系、寺、墳、墓、夫、婦、同、會、の、碑、面、小、兵、衛、氏、無、一、系、居、士、系、氏、
 松、堂、主、壽、大、師、と、あ、れ、ハ、平、内、を、傳、へ、兵、衛、氏、ち、り、あ、り、け、と、る、の、妻、女、の、氏、を、以、つ、て、混、雜、世、の、ち、れ、
 辨財天社、山門の前の方面小、北九の上小あり、世小、老、女、叔、方、天、と、唱、神、勝、の、意、覺、大、師
 の、尤、今、西、宮、稻、荷、の、社、比、比、より、真、小、あり、と、ひ、り、
 空、地、も、く、親、玄、尊、至、の、洞、像、の、と、あり、て、堂、社、也、
 紫、一、科、小、山、門、の、東、の、方、小、大、佛、を、安、置、
 といひり、
 小、條、五、代、記、等、の、書、小、大、永、二、年、九、月、の、と、
 小、條、五、代、記、等、の、書、小、大、永、二、年、九、月、の、と、
 折、小、十、八、日、され、常、より、も、殊、小、を、傳、へ、の、人

兵衛平内玄衛
 二王座禅像



鎌田政清造
六心藏石燈籠



大 東 大 鐘
鐘銘曰寬永丙子歲
觀音堂見伽藍破壞即命改
作之凡二十餘所又於堂後林中創建煨燼公復
照官後僅數歲民屋火起神宮佛閣悉煨燼
命老臣某等營造如初自爾呂還日往年來超四十
風雨所侵寢至毀今
樹幕下美先公之起土木之功命山城守戶
田忠昌使八十右衛門尉領重清薰匠事鳴呼結
三浦義成八昂而可望破裂因改鑄之備後守
構之崇彩飾之美仰而可望破裂因改鑄之備後守
可量裁其樓上掛之鐘亦為常報十二時之資糧
牧野成負喜捨黃金二百兩為常報十二時之資糧
鐘既成銘並序刻之銘曰鐘之擊之
鐘本無音觸物是擊之
衆生一切唯德峰嶽
鯨吼忽發迷夢頓驚
誠念彼力次茶稱其名
元祿五年八月日
諸苦解脫悲願維明

大 東 大 鐘
鐘銘曰寬永丙子歲
觀音堂見伽藍破壞即命改
作之凡二十餘所又於堂後林中創建煨燼公復
照官後僅數歲民屋火起神宮佛閣悉煨燼
命老臣某等營造如初自爾呂還日往年來超四十
風雨所侵寢至毀今
樹幕下美先公之起土木之功命山城守戶
田忠昌使八十右衛門尉領重清薰匠事鳴呼結
三浦義成八昂而可望破裂因改鑄之備後守
構之崇彩飾之美仰而可望破裂因改鑄之備後守
可量裁其樓上掛之鐘亦為常報十二時之資糧
牧野成負喜捨黃金二百兩為常報十二時之資糧
鐘既成銘並序刻之銘曰鐘之擊之
鐘本無音觸物是擊之
衆生一切唯德峰嶽
鯨吼忽發迷夢頓驚
誠念彼力次茶稱其名
元祿五年八月日
諸苦解脫悲願維明

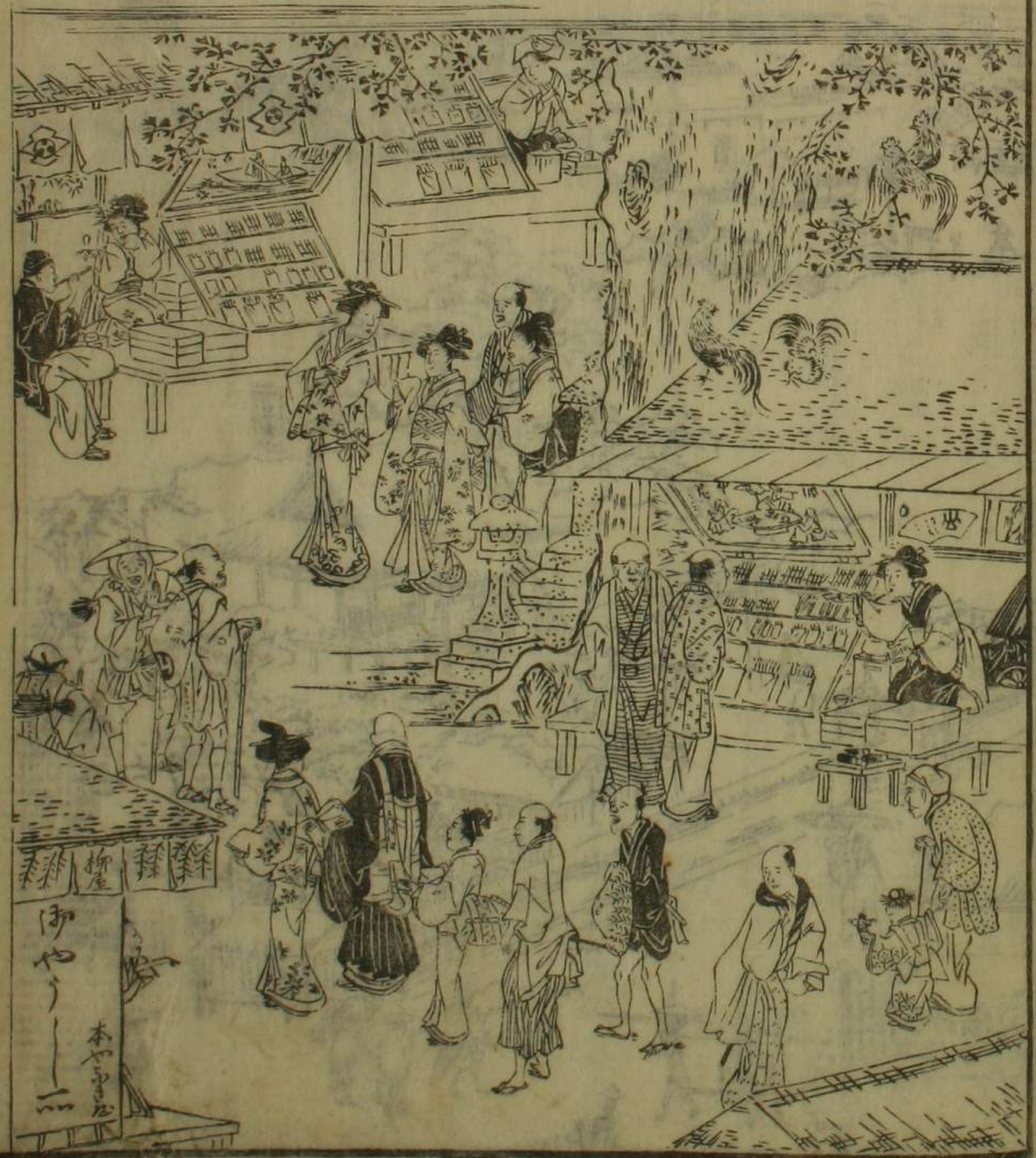
武列豐島郡金龍山淺草寺權僧正宣存拜撰

鑄師 武列 深川 大 田 近 江 大 塚 藤 原 正 次

石枕 いのまくら
 中東中谷州五院小あり庭中小山あり是を焼く枕と号すすまゝ尚書の仕對小石の枕
 あり傳説の文明年中道貞州后田園雜記小生るる文章をこ小記を願る倍侍と異なり田記
 をりつゝ尤小筆て其傳へ
 未だの父の枕と云ふ

田園雜記云 此里れりと小石枕といへるゆゑにたかふ石あり其故を
 尋ねし中頃の事小やありりむちまはれりひたり娘と一人持たり
 さ容色おほくよのつねきりりかの父母娘を遊女小志て道あり
 せと小むむひかの石枕とてにいさちひて交會のゆせいとて
 せりりり兼てよりあつの夏ちれ折をそりて彼父母枕のを
 更に多寄くとも存しをりりる男のりりをうらたたと衣装似下
 の物と取て一生を送りたりたさるほと小彼娘はやくとひりかや
 あちりさや箴程もちた世の中小かゝるゆゑさの業をて父母
 りるとも小悪越小墮して永劫沈淪せむののれさ先非小垂て
 悔ても益め是より後のみさまゝ工夫して所詮我父母を出一也

楊枝店 やうじてん
 境内楊枝を
 常く店甚
 多し柳屋と
 稱するものを
 りて本原とを
 されと今其
 森号を唱ふる
 のまなく竟よ
 比地の名産とい
 るもり僧律
 楊枝の五の
 利あるを載て
 云く



柳屋
 本やうじ

一権現祠
姥ヶ池



さて見むと思ひある時道ひくありと告げて田の如く出立て彼石小
 外なりいつもの如くを得て頭を打つたなり急き物とも取むとく
 引ひきたる夜をあけて見む一人獨りややくとひてより
 され我娘なりむられすとひてあさすも云えりそれ夫
 より彼父母をすす發ふて度々の悪業をも悲愼懺悔して人々の
 娘の菩提をも深くとめりひまよりと語りて古老のやれ
 へ

（をさとのらひの世もさる石枕さことのかりに思ちるらめ

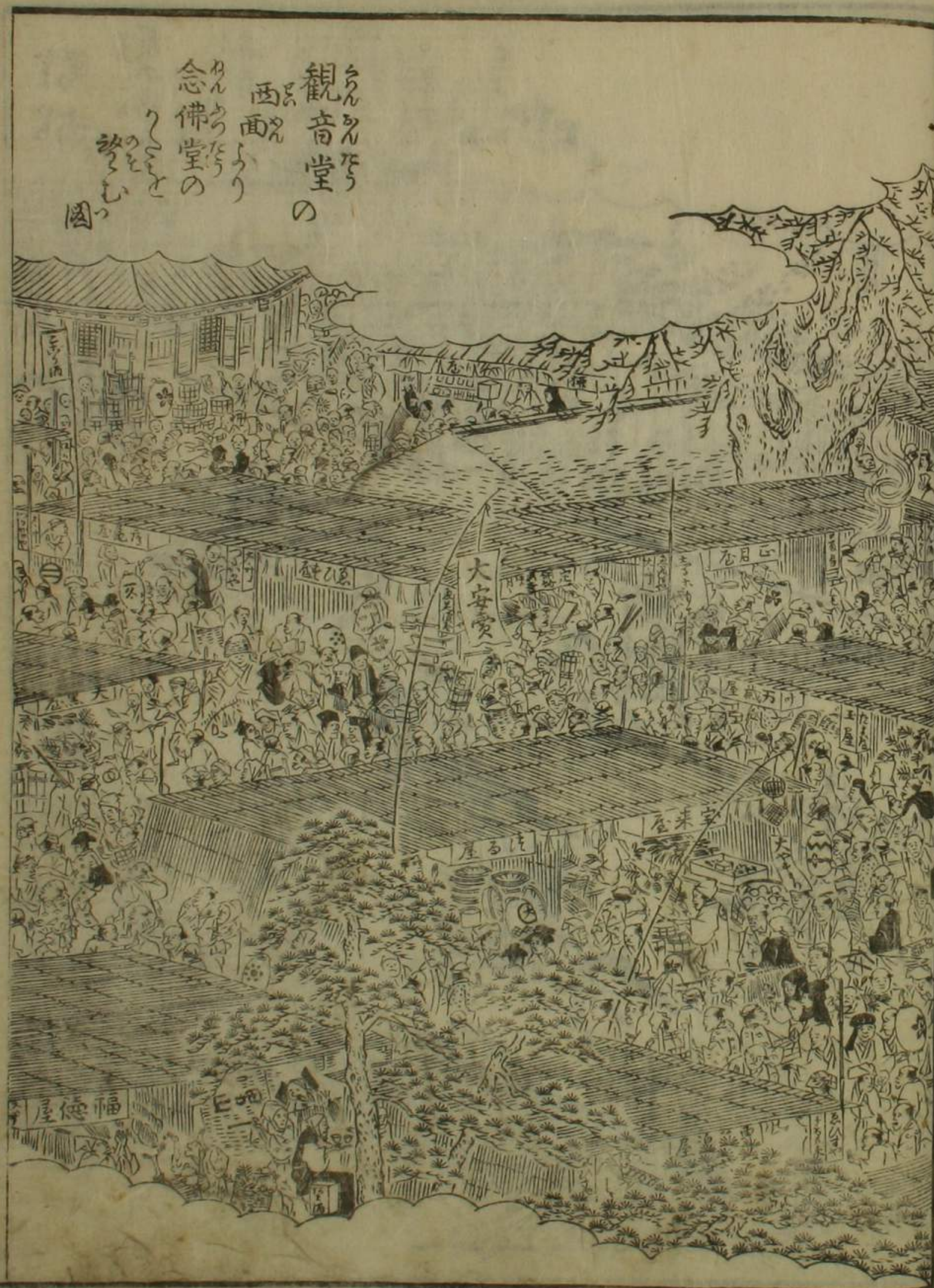
當所の寺号淺草寺といへる十一面観音小てまつそま〜ひれさ

霊佛めてま〜〜〜とちむ

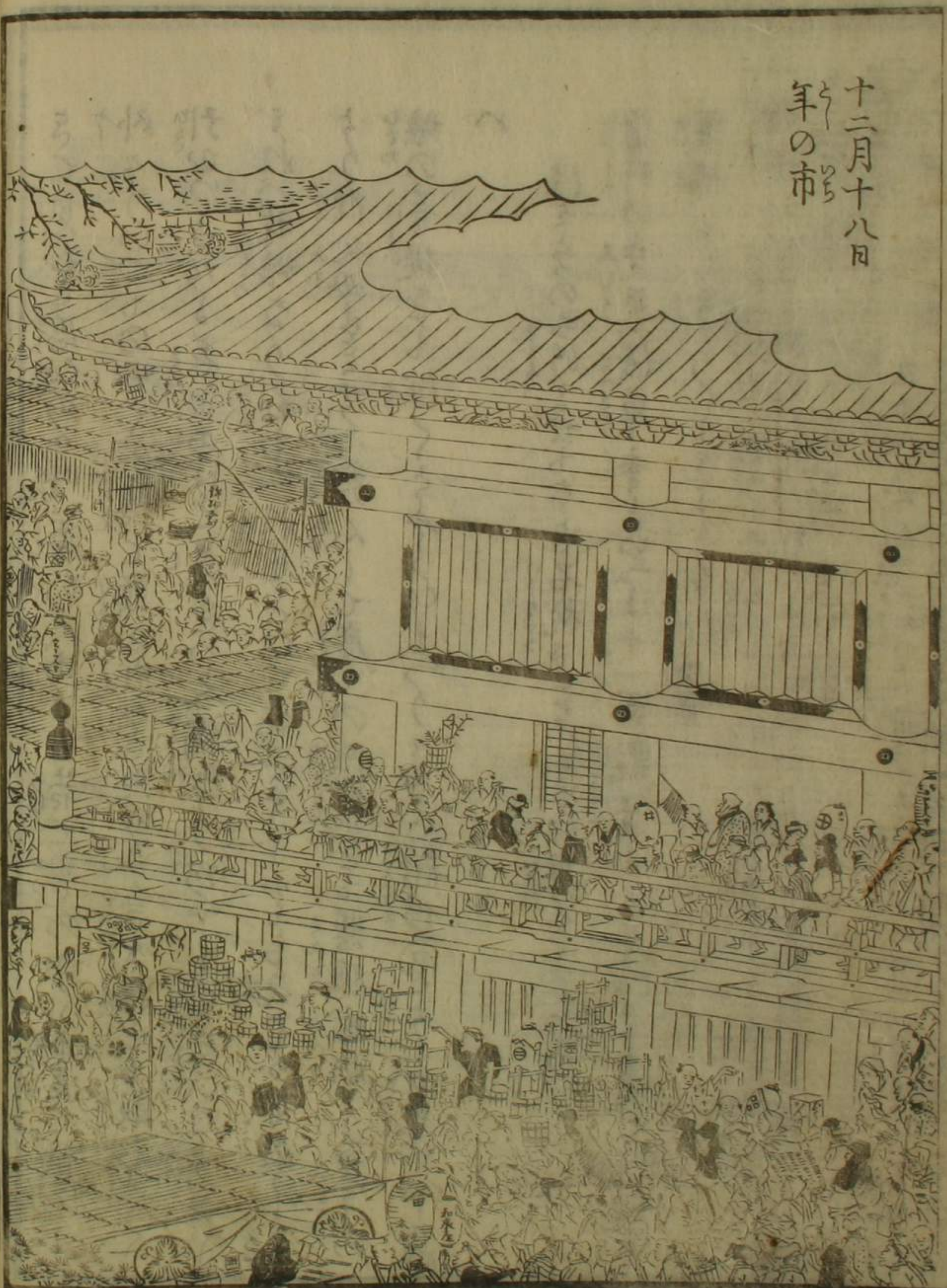
一権現社 因所頭松院の境内小あり土俗あかむ堂と云往古當寺奉る觀世音出現の

六地藏石燈籠 雷神門の外荒川戸町の入に角小あり娘小土人此所の河岸をさして

六地藏石燈籠 雷神門の外荒川戸町の入に角小あり娘小土人此所の河岸をさして



観音堂の西面
念佛堂の図



十二月十八日
新市の市



馬市
 萩の内と
 いづよ
 毎朝あり
 十二月
 南部
 二部
 買
 賣
 出
 入

棧鋪

棧鋪

前庭籠屋町... 三月十八日の市... 氏云々... 猶現... 高小六餅の地...

坊舎二十余宇... 故小悉く拾遺...

専堂坊 齋堂坊 常音坊... 此三坊の僕者...

觀音署... 觀音署... 觀音署...

雷神... 當寺南の總門...

額 金龍山 曼珠院二品良尚親王真蹟

本尊縁起曰人皇三十四代推古天皇の御宇...

て此地小流浪... 旧本記曰...

人恒小漁獵と産業と... 小作て可...

同三十六年戊子三月十八日の朝...

風静きとこれの小舟小乗... 此所の沖...

遊魚のさく小舟... 幾度も同...

異浦小至りてもいよく志のり...

機縁の淺く... と思ふの...

後舒明天皇の御宇十年戊戌正月十八日...

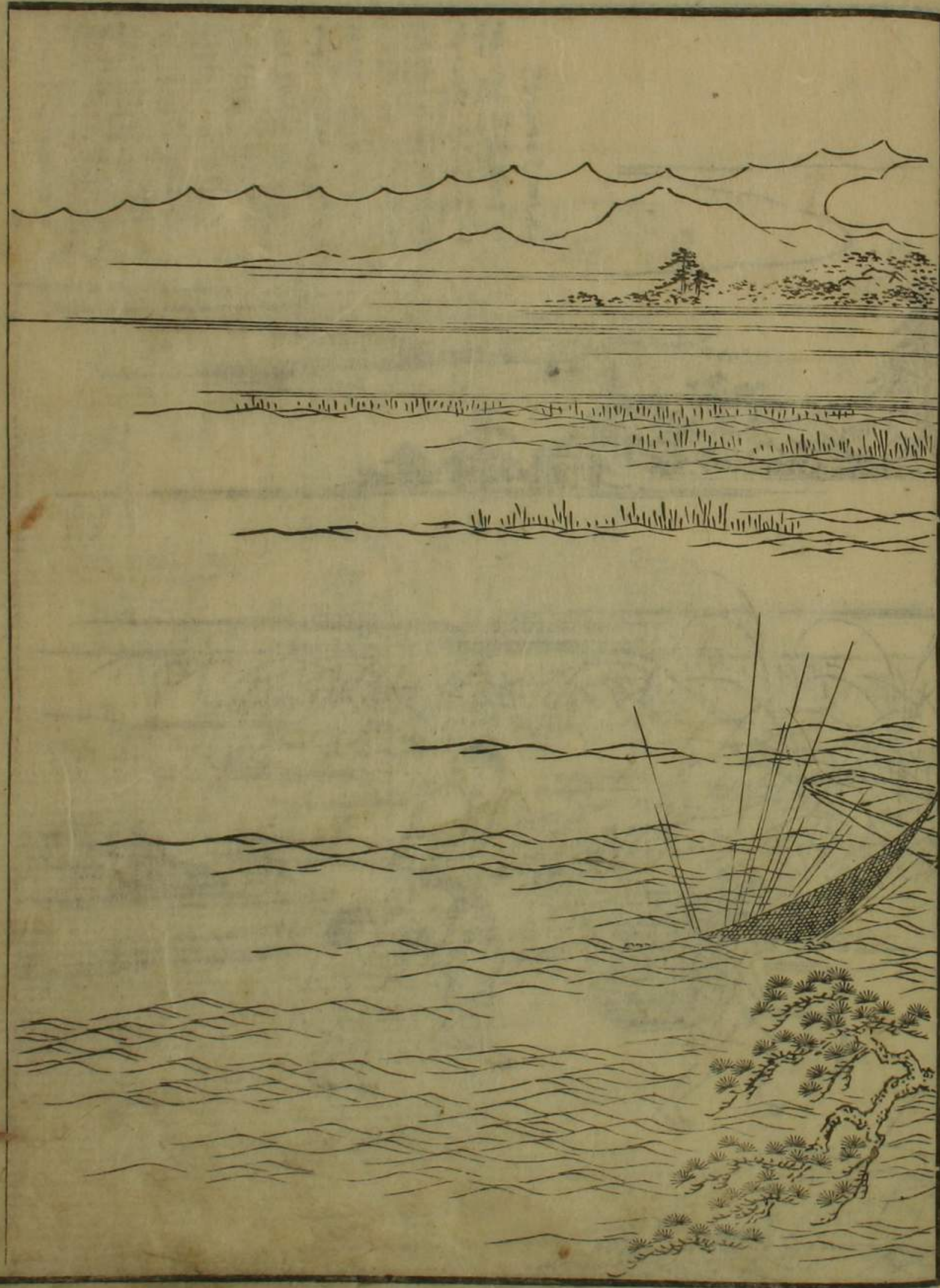
夫より回縁七度... 是累年...

年乙巳勝海上人東行の次適と小未と再嘗す...

天慶五年壬寅安房守平公雅...

武藏下野兩國の守小任...

則當寺の元山と稱す... 勝海上人...



延喜寺観音大士
 の出現あり一ハ
 推古天皇三十六年
 戊子三月十八日あり
 土師臣中知とよひ
 檜前濱成武成等
 の主従三人との官
 戸川の網をわけて
 比奈をんと得たり
 一よ一縁記
 の中より詳あり



往古土師巨中知と云
 檜前濱成武成等の
 主従後草川は細く
 相音大士の正位を
 感得せし此地の
 草川集て蒸と
 りて後の御堂と他
 を内は彼奉るを
 安垂しなりと
 のはけは其四谷の
 東谷一の権現の地
 り草川は後村よ
 りて十社権現と
 云々

兩度の戦い小軍ありて武藏守小任りしれり五年の夏任限満すて重病小のつて卒を依りて雅
と云國の守小任りしとありて雅の常陸大掾國香の弟上總介良兼の長男とて平将門と諫く
一六高又連 當寺小諸當國の太守乃々むをを祈求すつてくありてとて過任
此國の守とるるをたれに靈驗の空かりけるをゆゑ奉り奉堂とて以て宝塔幢樓

樓門經藏法華常行六所の社壇 の所の社壇と造立し田園數百町を附して長く龍
善の曉を期す 又長久二年辛巳十二月廿二日大比震動し佛容顯例 暹小後白河院兼曆
三年己未十二月日堂塔田録す其時本尊火中と出く坤の榎の梢よりうつり

ゆゑ兼徳二年戊寅日月藤原成實四箇年の間當國を拜任し猶重任の望
ありて祈願し靈驗あり依代々宇龍の田畑を尋く元の如く皆施入し奉
梅小大系乃小源成實と云一人武藏介小 其後九馬頭源義朝當寺へ奉請ありて

堂塔を修營し彼坤の榎を以て新小觀音の像を彫刻して納らる 其像今内陣
小寺に堂座小
奉行藤田乃政清と書けりり以東順禮記小康依年中義朝當寺觀音の像ありてありて花川
戸六比花の石燈籠の銘小文安二年丙寅とありて藤田兵衛の建たりとあり依り梅小康依より文安
三年己未十二月の間の事なり 又仁安三年戊子用舜法印大要小因心
善清の夕とつととありてこの事なり

佛閣を修營す治承四年庚子十月十七日 縁起小八月十七日とありて
縁起小八月十七日とありて
縁起小八月十七日とありて

田園若干を寄附し是平家追討の祈願小依り承久三年辛巳
禪尼政子二品及相小武乃西刺史致信し願書を捧け白檀の大悲の
像一軀と白糸の綾羅の帳一ありれ信濃布千端を寄附ありし伏見院

御宇正應二年己丑十月廿一日大捕聖とつて汝門其頃堂宇の破壊を數十
方小勸進して正安二年庚子三月十八日後當落成す其後建武年中將軍
尊氏鎮西發向の折りて夢想小依り當寺觀音願書をとめらる同觀音

三年壬辰 今年文和と改えあり 閏二月廿日 縁起小三月廿日とあり 武藏野合戦小も兼て勝
利ありんてを祈願ありて合戦の後美田を寄らる 承和は年戊午十二月十三日伽藍四層
すといつとも報致し悪あり

上す其頃相小田原の城主北条氏綱當國を領し其れに破壊の諸堂再
興ありて大伽藍と

天文八年己丑五月十八日當寺奉加帳小島傳長徳軒大道寺盛
富松田盛秀等の名を住し其は奉文の意小合たり又知是軒

妙山禪師の遺小松和年中近の棟札小武別源越後守道寺
駿河守是と奉行すとありと云
北条幕下遠山丹波守の起りあり又其師忠海上人と云
伊丹三河守の子あり三河守宿願の事ありと云
相續りてあり然る小元禄年中故ありて
鎌倉へ退居し夫より東叡山小属を當寺奉尊ハ殊小
大神若 御信仰最厚小依り寺領若干を附せり
田録の後も慶安三年庚寅六月三日手釘ちりありり
のり 公より後理と加へられ誠小無雙の靈場とるなり

後正會 除夜より正月六日小
七日の同夜 祭禮 神樂を本堂へ
温座を修行す 祭禮 神樂を本堂へ
のり 公より後理と加へられ誠小無雙の靈場とるなり

義市 田日近庄の農夫義と持ち雷神の前
其の神事と執行す此祭礼の鎌倉右府將軍再興
ありしとあり其節子甚古雅なりと殊勝あり

千日祭 七月十日の夜より赤瑞群集り信
のり 公より後理と加へられ誠小無雙の靈場とるなり

多羅尼會 同十二月より
のり 公より後理と加へられ誠小無雙の靈場とるなり

拍板 毎年六月十五日執行此日也三月十七日の
のり 公より後理と加へられ誠小無雙の靈場とるなり

抑當寺の一千百七十有余年を經の古刹なりと實小日域無雙殿念日の靈
區あり其靈驗の著るる普く世小知所あり常小金鈴玉磬の響音絶す燒香
散善の勤行怠るなまら朝より夕小至る近糸詰の貴賤袖を連く場あり

急満月殊更月毎の十七日より通夜の緇素堂中小糸龍と終夜誦經念
咒急慢なり又境内賣物の扱方中も錦袋圓淺草餅揚枝殊枚九倍
子茶釜酒中気香煎浮人形の類殊小浅草海苔も其名世小芳一手遊
錦繪等と高小店軒とるるを他邦の人と小至りり其熱意を志るへ

浅草川 隅田河の下流なりと舊名と宮戸川と早
二品と此河の名産とん美味なり是を賞り鰻鱺も又佳品とす

按小半平流起の中小宮戸川の仲小細をりんとりあり原平盛妻記小後兼平九年九月頼朝下
總より武藏一打越らるる条下小石濱とすなり此河を流り知行不ありあり西國船の著た
るを板千艘あり三日の中小浮橋とるるなりとありあり往古石濱の邊より西國船の著た
船も入末ととえたり又氏康武藏野記行小隅田河小着中農むりり安房上總のありり之渡

此日龍の神相とる
是を受得んとる華堂

此日龍の神相とる
是を受得んとる華堂

此日龍の神相とる
是を受得んとる華堂

此日龍の神相とる
是を受得んとる華堂

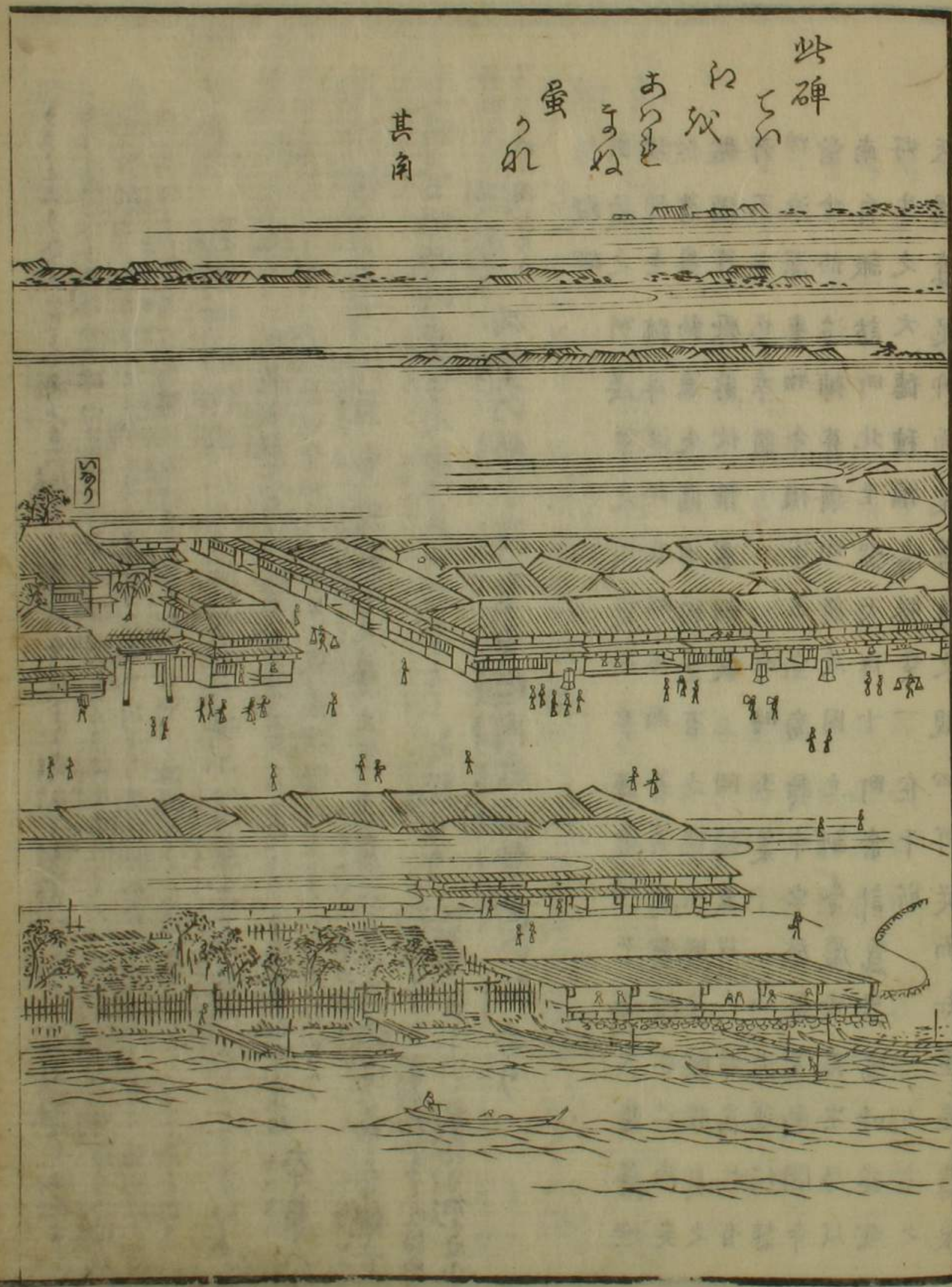
此日龍の神相とる
是を受得んとる華堂

此日龍の神相とる
是を受得んとる華堂

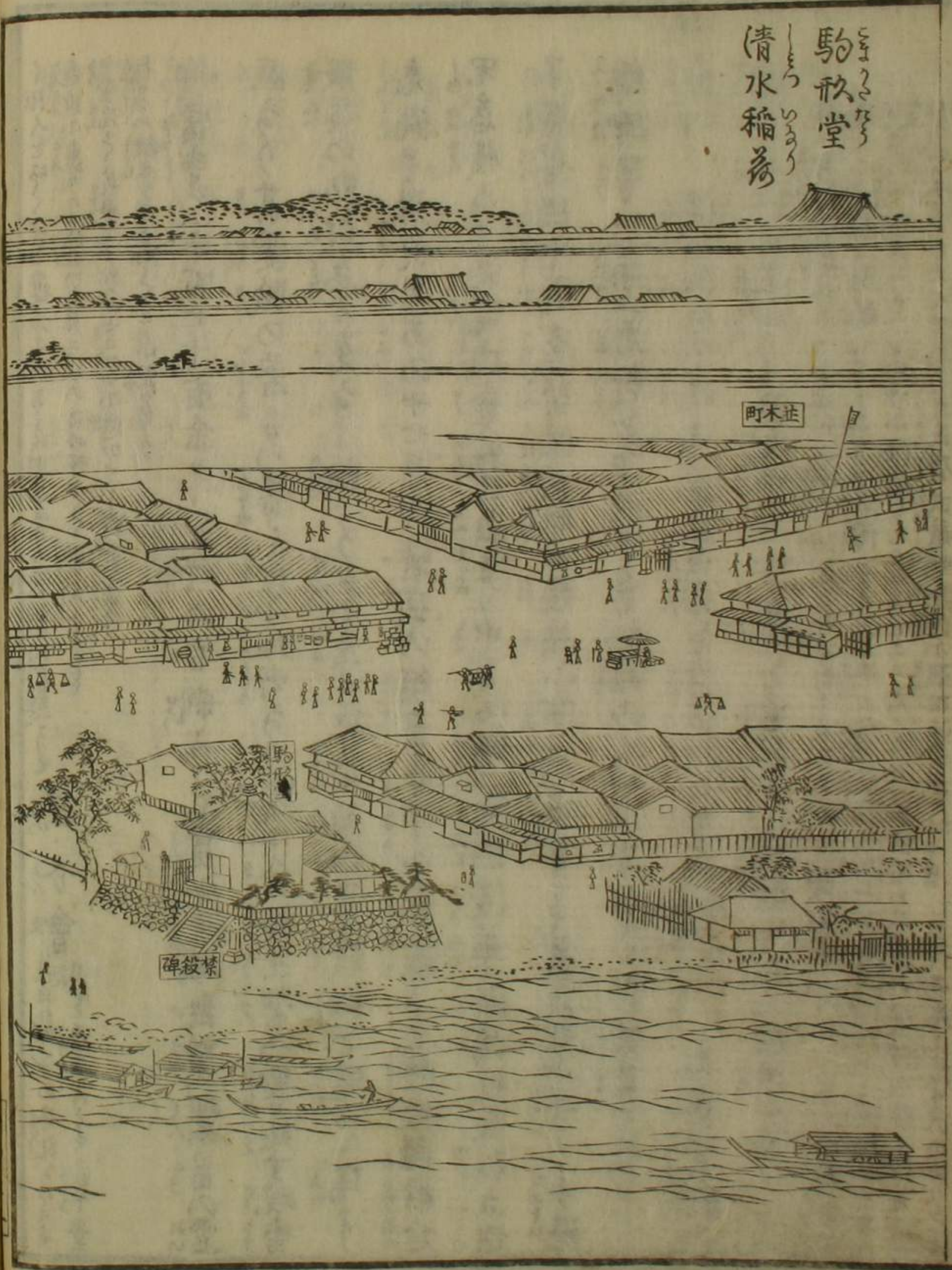
此日龍の神相とる
是を受得んとる華堂

此日龍の神相とる
是を受得んとる華堂

此日龍の神相とる
是を受得んとる華堂



此碑
 白
 成
 あ
 子
 ぬ
 虫
 其南



馬秋堂
 清水稻荷

ありありとあり今あつて... 寺島柳島牛島大島... 駒形堂... 馬頭観音... 堂造営の時此堂宇も建... 此堂の傍小浅草寺領内殺生禁断の碑あり

禁殺之碑 武藏之川 遠出乎源近注干海大悲薩埵
 現像在 跡洋如 昭而著其為靈境亦己尚矣
 然固可厭惡伏惟靈刹數回祿蓋以大悲為此有
 所不安也幸遇禮宗三寶今時不兼於去歲仁慧
 四海深重命猶如新成因立制令嚴戒殺生乃以
 堂舍修治補葺如新成因立制令嚴戒殺生乃以
 南自諷訪北至聖天岸十町余計為界嗚呼盛哉
 好生之德種福之業一在干斯 心可從而知區區愚哀
 天恩意足仰而望菩薩之觀

感仰有餘乃為銘曰
 維斯一心 即具三千 以我則乖 以觀則圓
 鱗介異類 好惡同然 詐忍殘殺 不知哀憐
 營生嗜味 速禍取愆 畏報於後 思戒於前
 文明時命 慈悲如天 網罟作禁 魚鼈無度
 豈但物命 因慈得全 教化所及 擊習能悛
 元祿六年 武列豐島郡金龍山淺草寺權僧正宜存誌

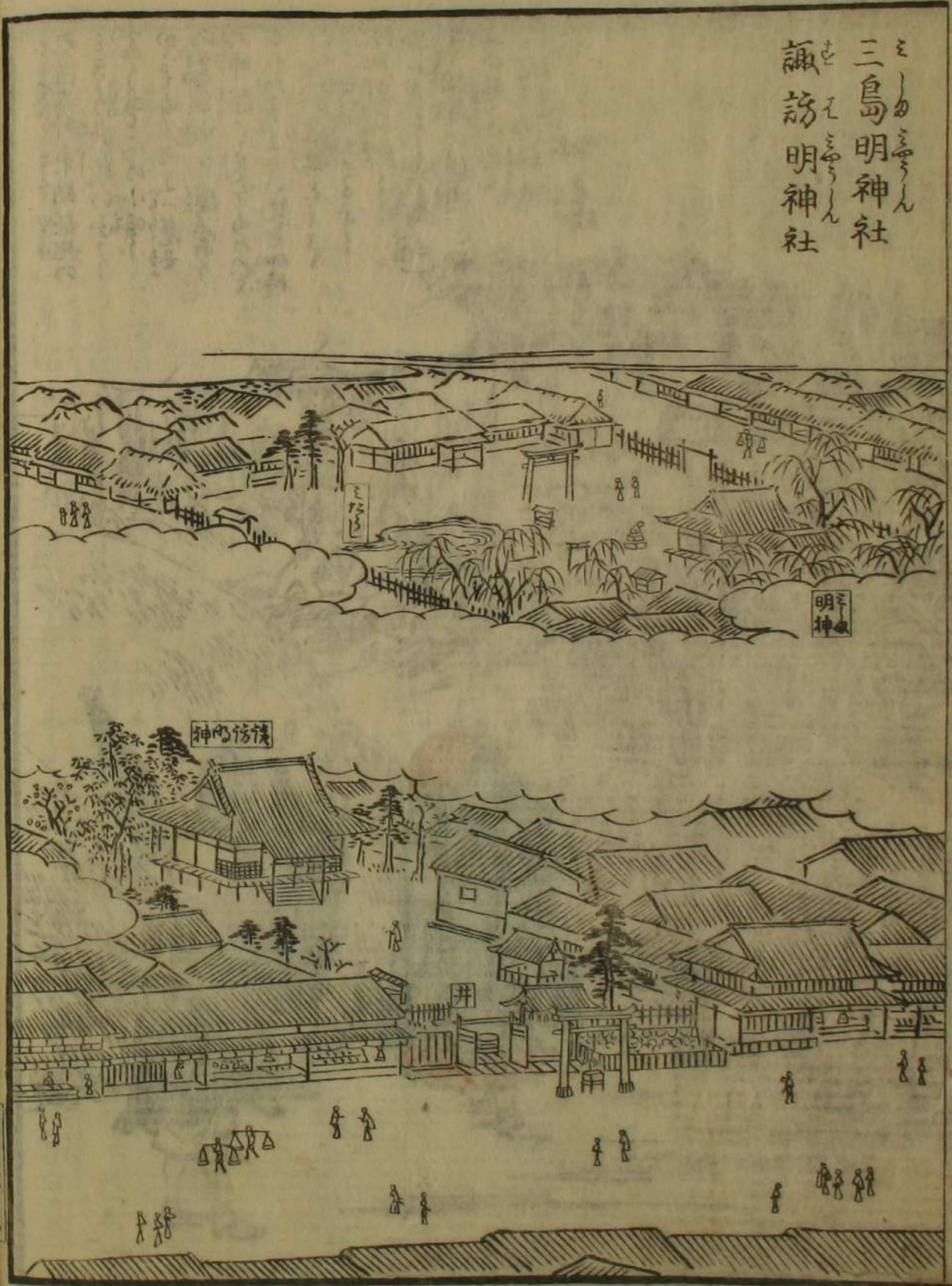
三島明神社 駒形町の西二丁より小あり 祭神大山祇命一坐
 積小く 土人伝云往古河野河某本國豫列の地より此武藏國へ赴くの海上
 風波の冠小逢仍奉國一宮の御神小祈り奉り小恙ある者岸
 へく神恩を報奉らむ乃弟宅の地小勧請あり由昔ハ个皆坂幸小あり
 を元祿年中今の地へ遷る 其地北東蔵山の東の 祭礼ハ毎歳五月十五日あり
 清水稲荷社 駒形町小あり往古嘉善年中弘法大師東國遊化の地
 此國へ入ぬ一頃靈告小よつて如意宝珠を神跡とて稲荷小勧請た
 其地より清泉涌出故小清水の名あり其後管中感應寺の地となり法華の勧請と
 ありて寒松院構のうちとあり今清水と名する其地を以て妙行院といふ旧北の東蔵山の西のくこ
 昔小の池小ありこれより棲る小元祿二年完板の江戸巻鹿子といふ草紙小谷中稲荷清水今小池と

又江戸名所記の説
 行道山麓と稱する此の谷合より流せしる清水ありて是をくひ
 小弘法大師東國遊化の御武藏國よりくひとの小坂小
 ぬの頂老女の水桶を載て行り大師彼の水を乞たまふ時老女の云く此辺
 水ぬく遠く是と汲由まうられ大師憐み獨鉈を以く加持たまひ
 其所小清泉涌出と其傍小當社と勧請しぬひたるといふ
 諏訪明神社 同所該所町小あり祭神ハ信忍の飯訪小月く健御名方命
 るそ當社の権輿へ至て久遠より未由等詳あり
 權寺 同所黒船町小あり淨土宗より増上寺小屬す沈中山正覺寺と號す
 奉尊阿弥陀如來の惠心僧都の作りて兵山の觀智國師あり往古當寺小
 名ある大本の權りり一故小号と有りゆり
 石清水正八幡宮 大倉前小あり元禄五年 台命小仍て石清水正八幡宮を
 勧請せり 昔ハ文殊院の八幡と稱し高野山行人流の僧住職 別當を大護院と号し雄
 徳山と云兵山幸沼法印あり護摩堂の本所のハ大明王より運慶の作りり



弘法大師東國遊化の
 武藏國の
 小坂小
 ぬの頂老女の水桶を載て行り大師彼の水を乞たまふ時老女の云く此辺
 水ぬく遠く是と汲由まうられ大師憐み獨鉈を以く加持たまひ
 其所小清泉涌出と其傍小當社と勧請しぬひたるといふ
 諏訪明神社 同所該所町小あり祭神ハ信忍の飯訪小月く健御名方命
 るそ當社の権輿へ至て久遠より未由等詳あり
 權寺 同所黒船町小あり淨土宗より増上寺小屬す沈中山正覺寺と號す
 奉尊阿弥陀如來の惠心僧都の作りて兵山の觀智國師あり往古當寺小
 名ある大本の權りり一故小号と有りゆり
 石清水正八幡宮 大倉前小あり元禄五年 台命小仍て石清水正八幡宮を
 勧請せり 昔ハ文殊院の八幡と稱し高野山行人流の僧住職 別當を大護院と号し雄
 徳山と云兵山幸沼法印あり護摩堂の本所のハ大明王より運慶の作りり

三島明神社
諏訪明神社



闇魔堂

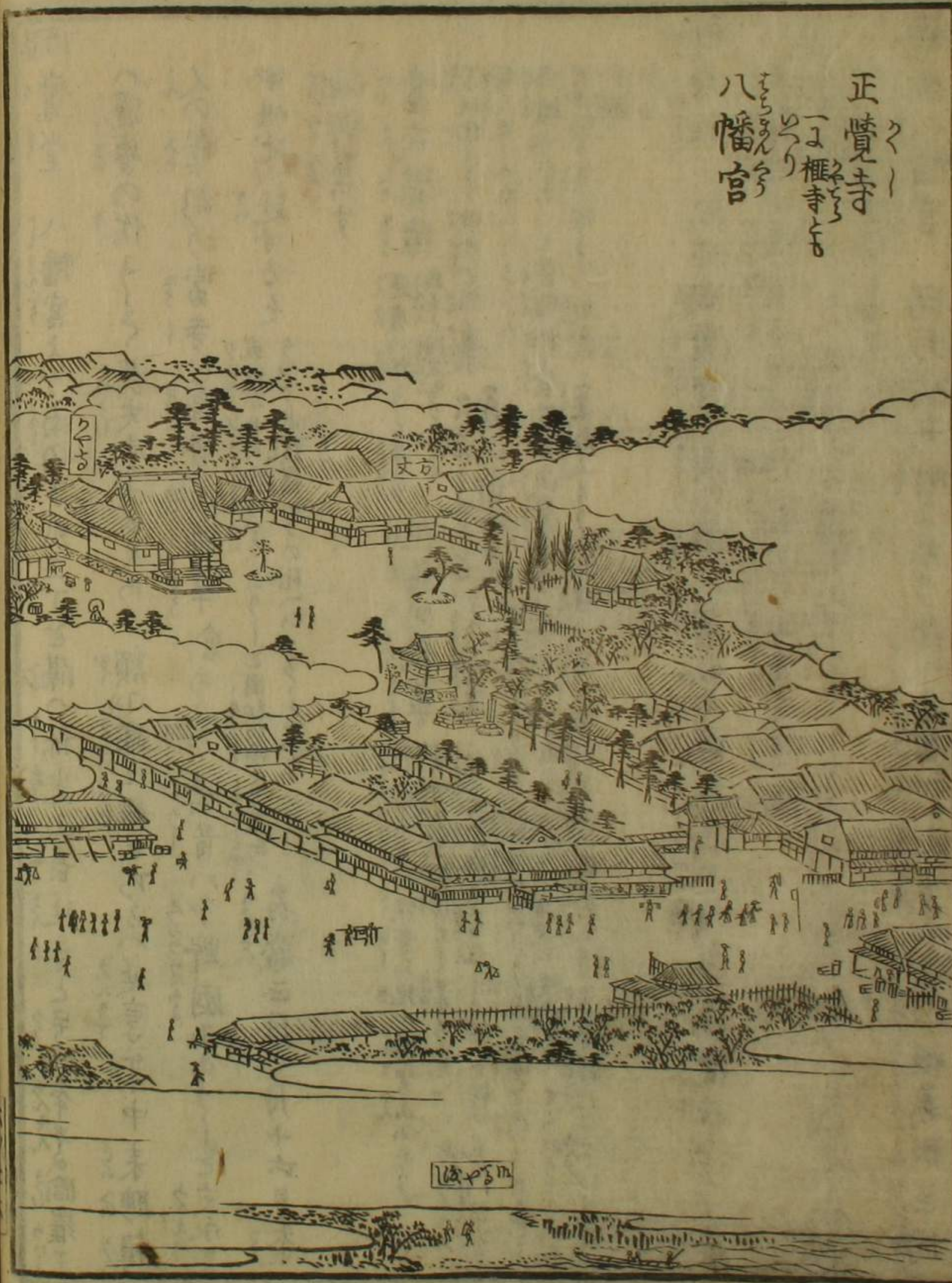
八幡宮より南の方式三丁を隔つ称光山長延寺と号し奉る闇魔堂
 運慶の作りし其夫壹丈六尺あり額小闇王殿とある延享年中未聘韓
 人の筆ぬり當寺の慈覺大師草創ありし時昔ハ下野國小ありしと文永年
 中此地へ遷すと
 或説小昔の闇魔堂ありしと國初の頃る嘗て
 うつされ後後いすの地へひろるとり
 諸群集す
 毎歳正月七月十六日夫也

棄衣婆像

運慶の作りし奉る
 化馬地藏尊
 昔佛去と排傍にあり是を化度号し
 佛眼上人として慈眼供養せし法皇より規音の壺區三十三所規音履れ順禮ありせられりと長身
 佛眼上人として慈眼供養せし法皇より規音の壺區三十三所規音履れ順禮ありせられりと長身
 佛眼上人として慈眼供養せし法皇より規音の壺區三十三所規音履れ順禮ありせられりと長身

祇園社

同所闇魔堂の南小隣る當社牛頭天王ハ天曆年中の禪座なりとを
 大倉前の總持守小して別當を大田寺と号し
 十王堂 境内小あり慶長十八年又寛文御建ありしとを中その比藏菩薩して左右小冥府十五
 銀杏八幡宮 同所福井町あり傳く云當社の永美六年源頼義朝臣同

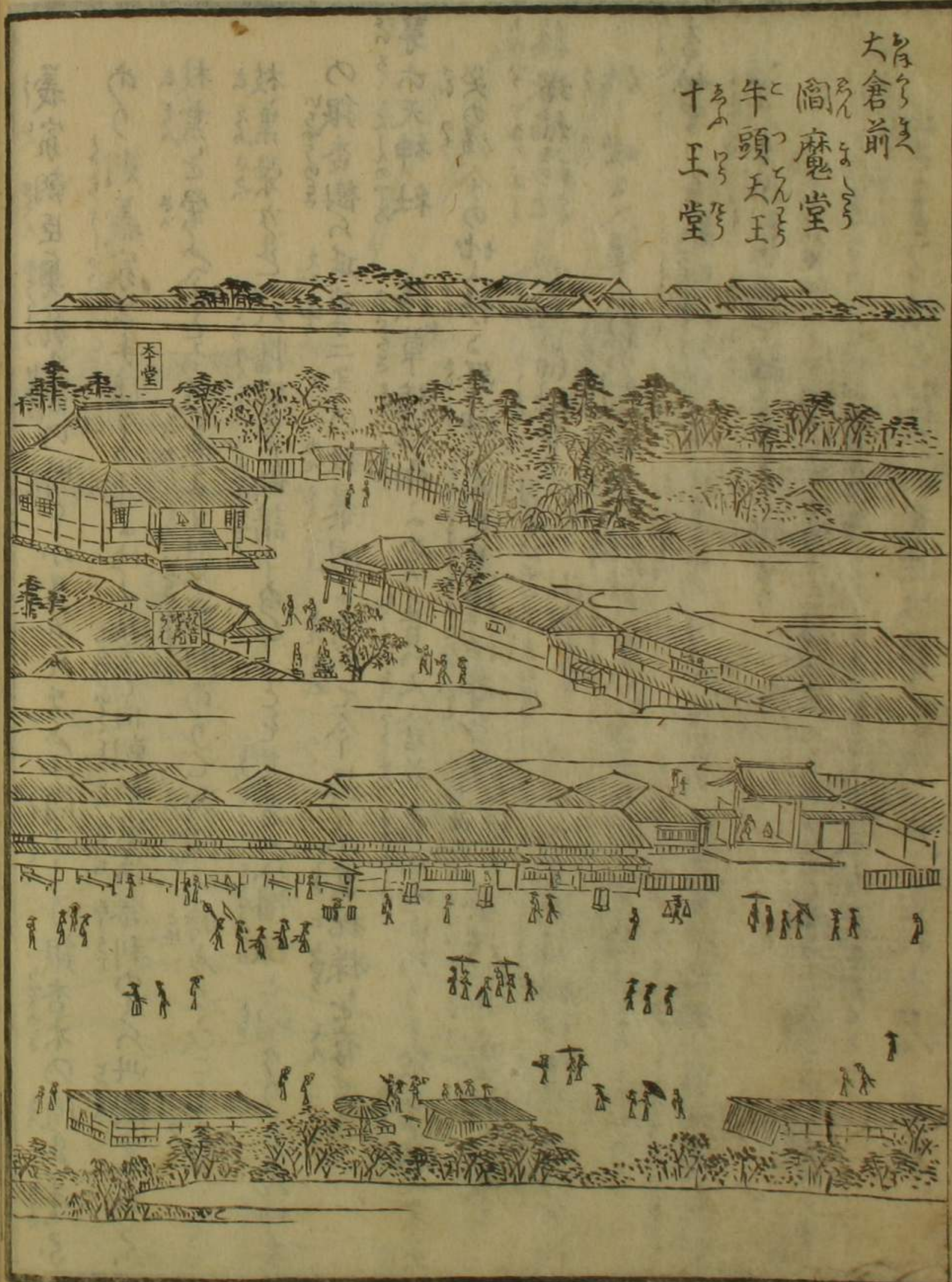
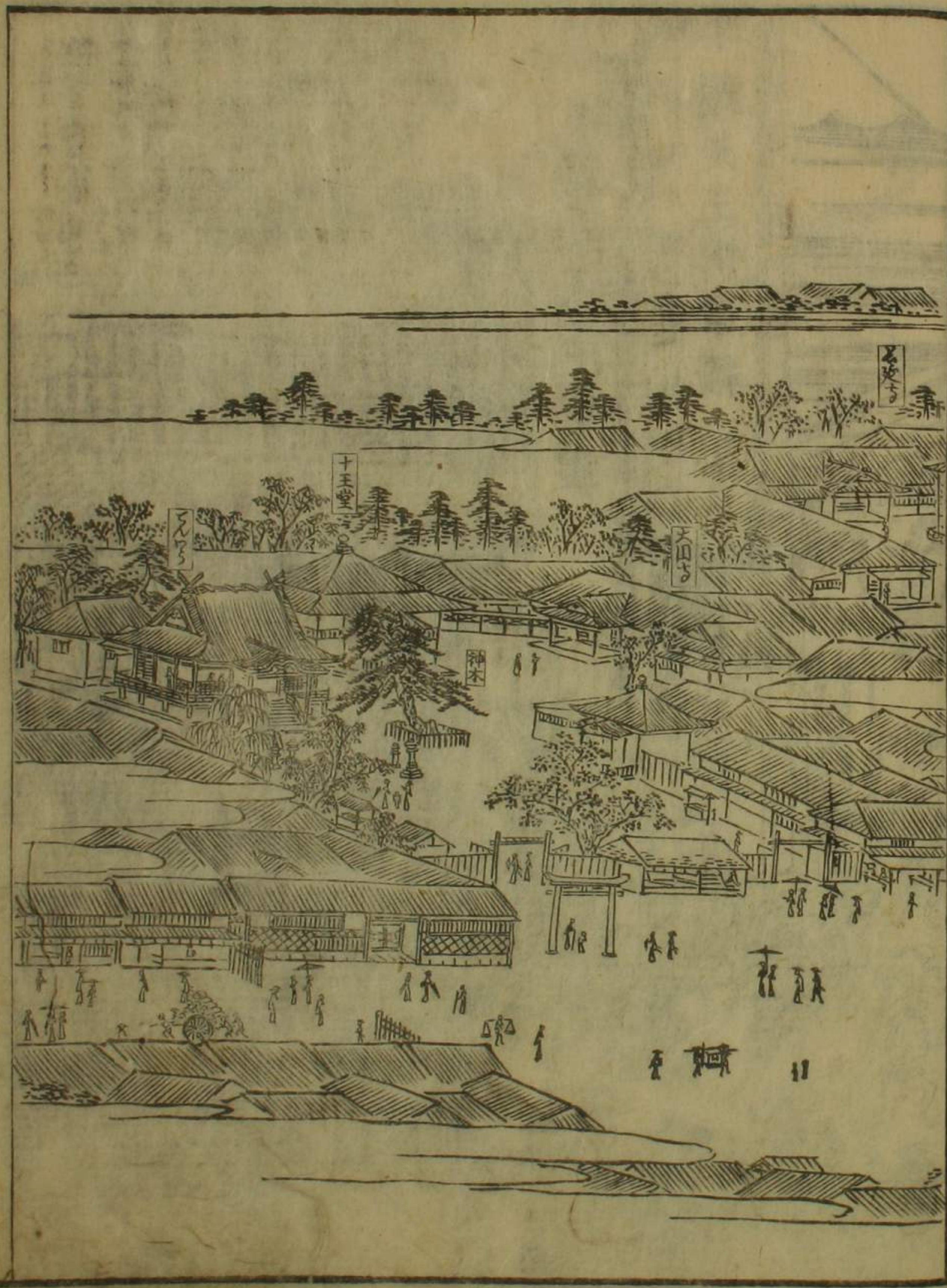


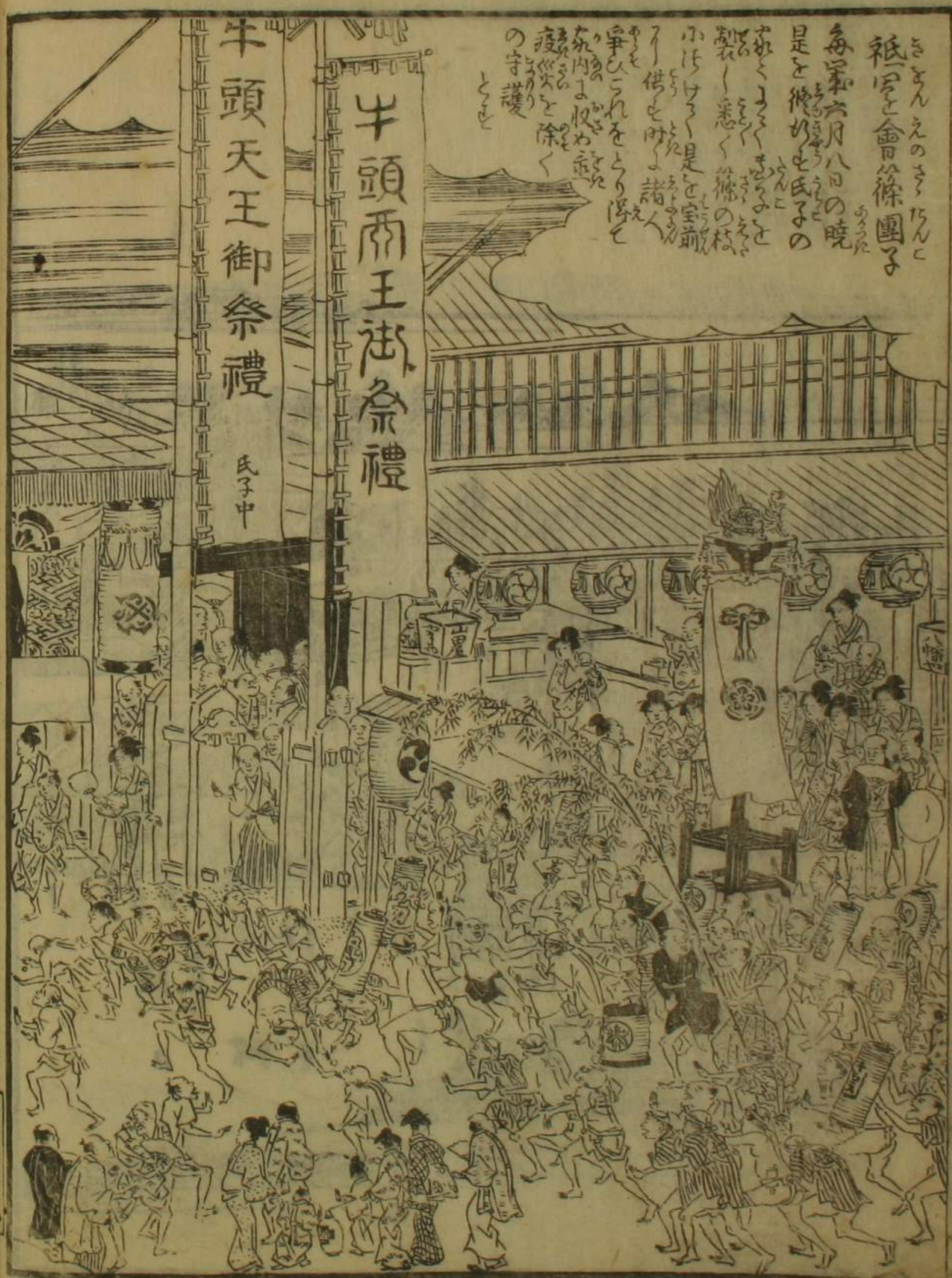
正覺寺
くわい
 一ノ樞寺
 といり
 八幡宮
はちまんぐう

御厩河岸渡



義家朝臣奥の河下向の時と小至りたす小河上より銀杏本の流と来り
 あり則義家公手はくく地は一折言て曰朝敵退治勝利ゆへ此樹すまよふ
 枝葉を常へとあり遂は其軍勝利ありて凱陳の時々々ひとまきりぬふ
 枝葉栄々として八幡宮を勧請ぬひとと其昔の八幡塚と唱たりと云ん神本
 の銀杏樹の延享二年の秋暴風よ吹折て今も其枯株を存せり
 第六天神社 浅草橋の外あり昔の大倉前森林田所あり一伝享の保正年火
 災の後今の地に移る祭神は面足尊根根尊なり 天神と云ふ祭神は毎歳六月廿日あり
 藤塚稻荷社 當地の旧社なり 往古はあまのつみかみ 神事あり 伊賀守當社に伝
 作一晩入道して社の側を庵室と修して住まはるる 通玉花院は寺橋ありと云り
 多越里 多越明神の辺より大倉家の辺までと云り小倉家分限帳に富永若丸忠
 江戸多越村の内と傾するを記せり
 寛惠北園紀行は文明十八年十二月廿二日隅田川の辺を越といつる海村と名流といふ箱のり破宅
 多越と云りて因縁あり也をぐる金老ふも金老ふも一をり因十九年元田よ
 おさまるはをのけさや荒波根のぞんと志す孫小倉孫多らん 寛惠





さきんえのさうらん
祇園と會公孫團子

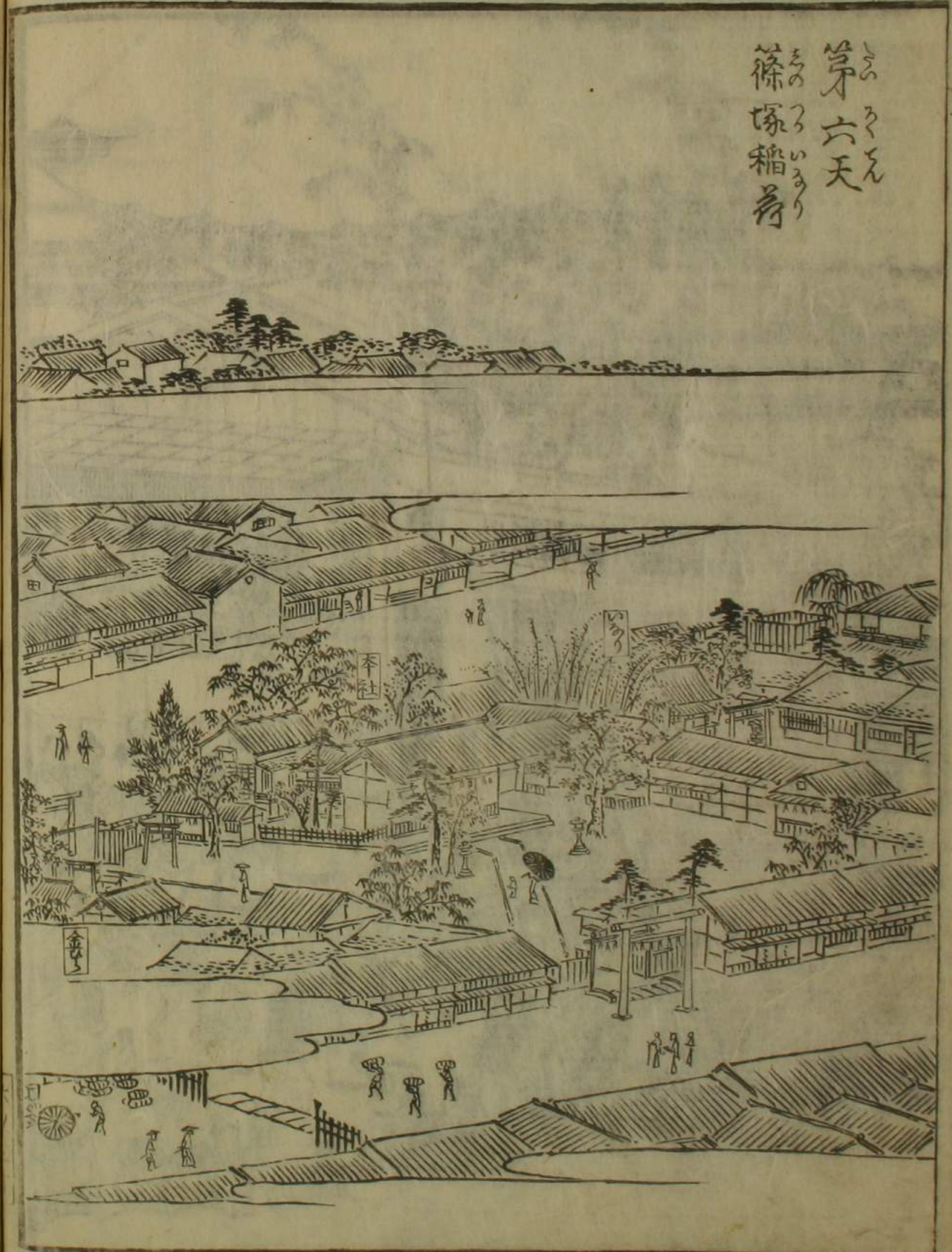
毎家六月八日の曉
是を彼坊を氏子の
家々へ送りさるるに
製し悉く孫の枝
小はけく是を室前
へ供を時諸人
争ひこれをとるは
奈内は収め
疫災を除く
の守護
と云

牛頭兩王出祭禮

牛頭天王御祭禮

氏子中

第六天
篠塚稲荷



田圃雜記 鳥越の里といふ所へ行くとて

暮小たり中らりの川くといとく日小あれ寝小行鳥越乃里 道真准后

鳥越明神社 元鳥越所より此邊の産土神とす奈神日本武尊相殿天

兒屋根命あり 昔の第六天神熱田明神を合せて鳥越三所内社と号けり正保二年此地

より熱田の三苔の地という一第六 當社の最古跡あれとも舊記等散失して勸請の年曆

未由等詳ありすとつり奈禮ハ滿年六月九日あり

東光山西福寺 良雲院と号ん 良雲院殿 御尊殿と号ち小華一 鳥越明神

より三所をとり東の方小あり江戸浄宗四ヶ寺の隨一して奉尊阿弥陀如

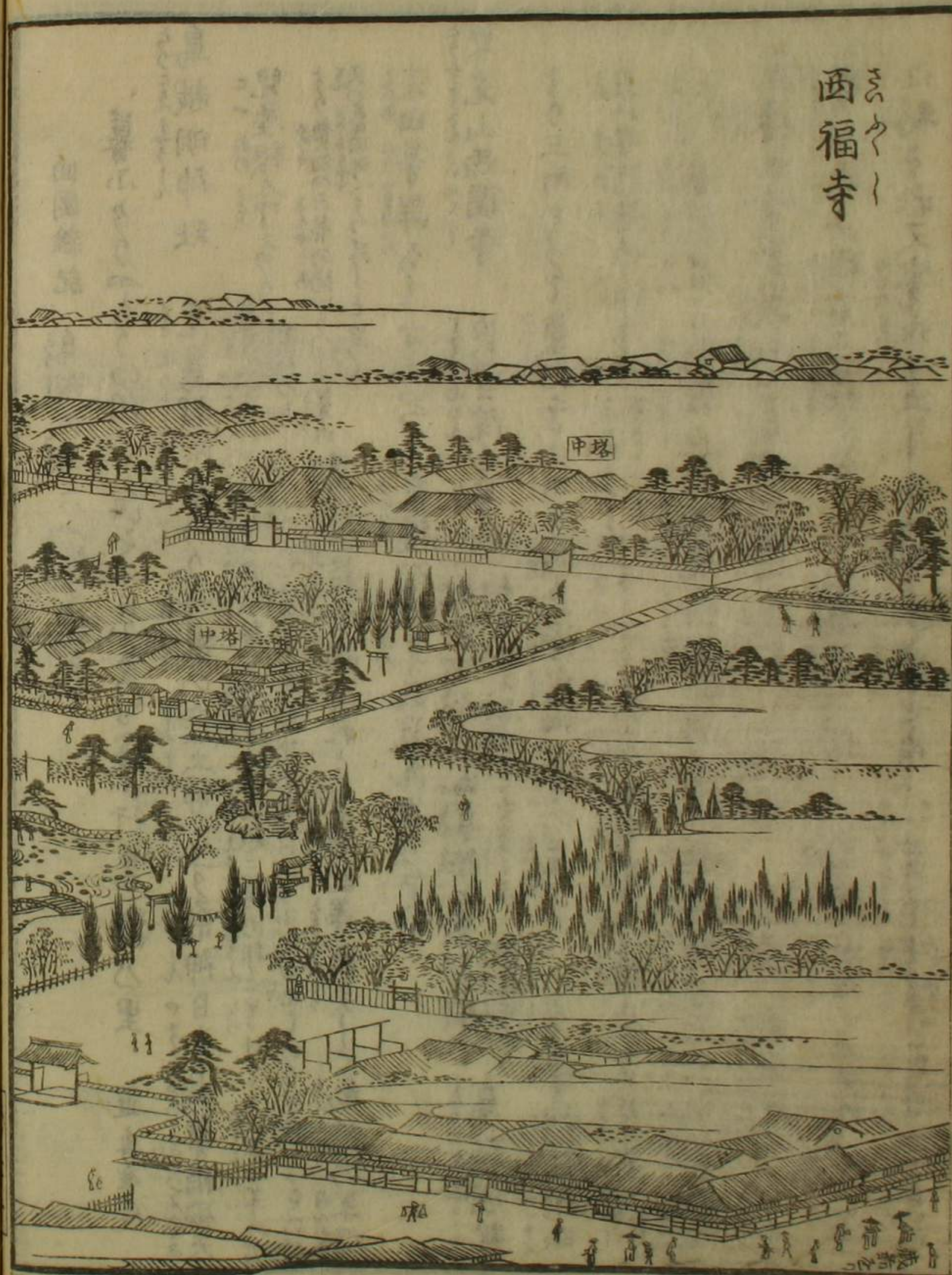
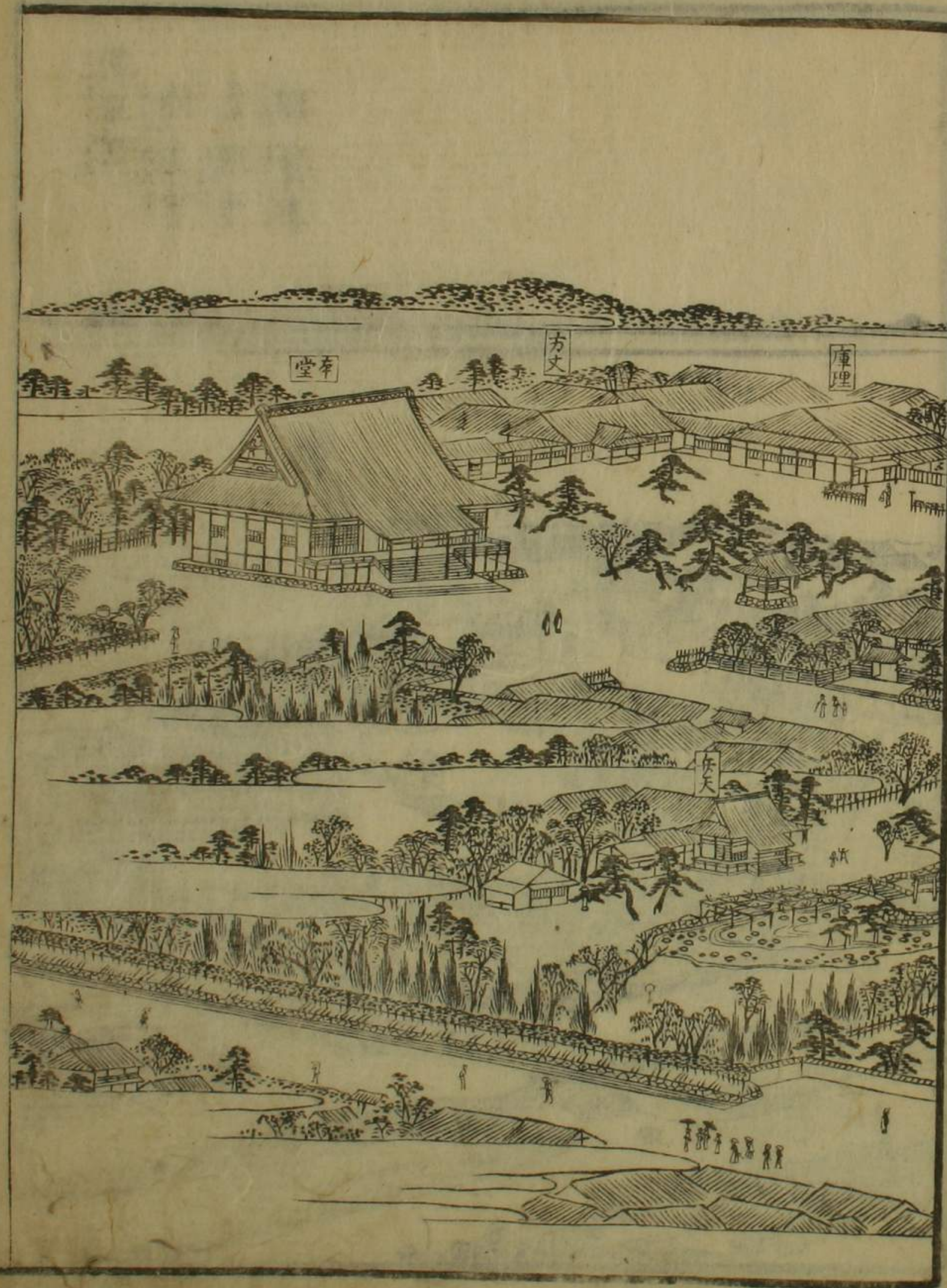
来ハ安阿弥の作あり 三ヶ切とうつ 禰山と真蓮社貞譽了傳上人と号ん 元和八

北七日小 遠乃屏り割戦死の迷魂得脱の師あり 迷意得脱の功ハ武父の戦功

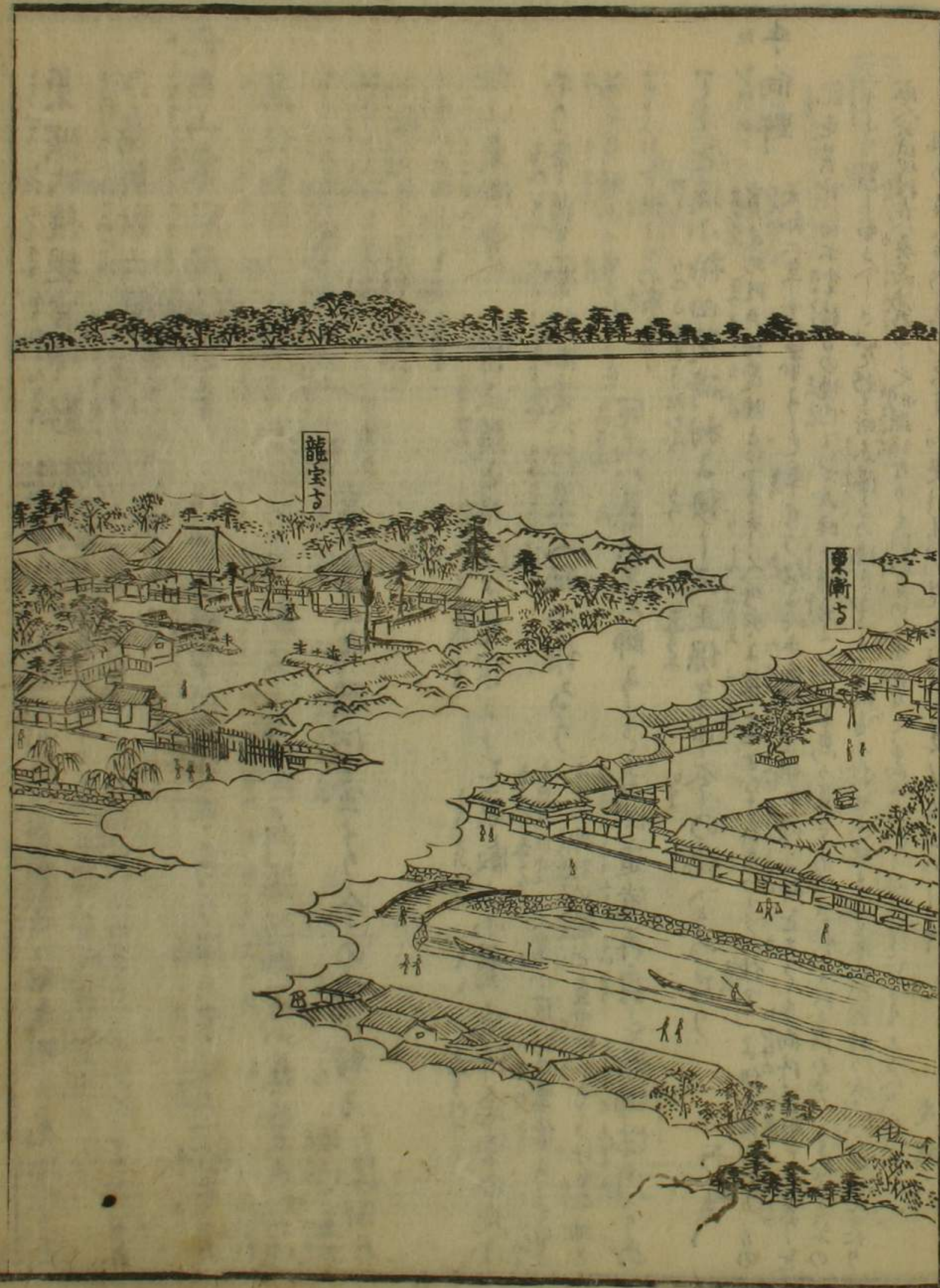
小等一り多し其功を永世傳へんと 神祖 松平の御称号 兵山号

等とぬみ往古三ヶ切小あり一と慶長の頃 台命より依て崇徳院後阿臺

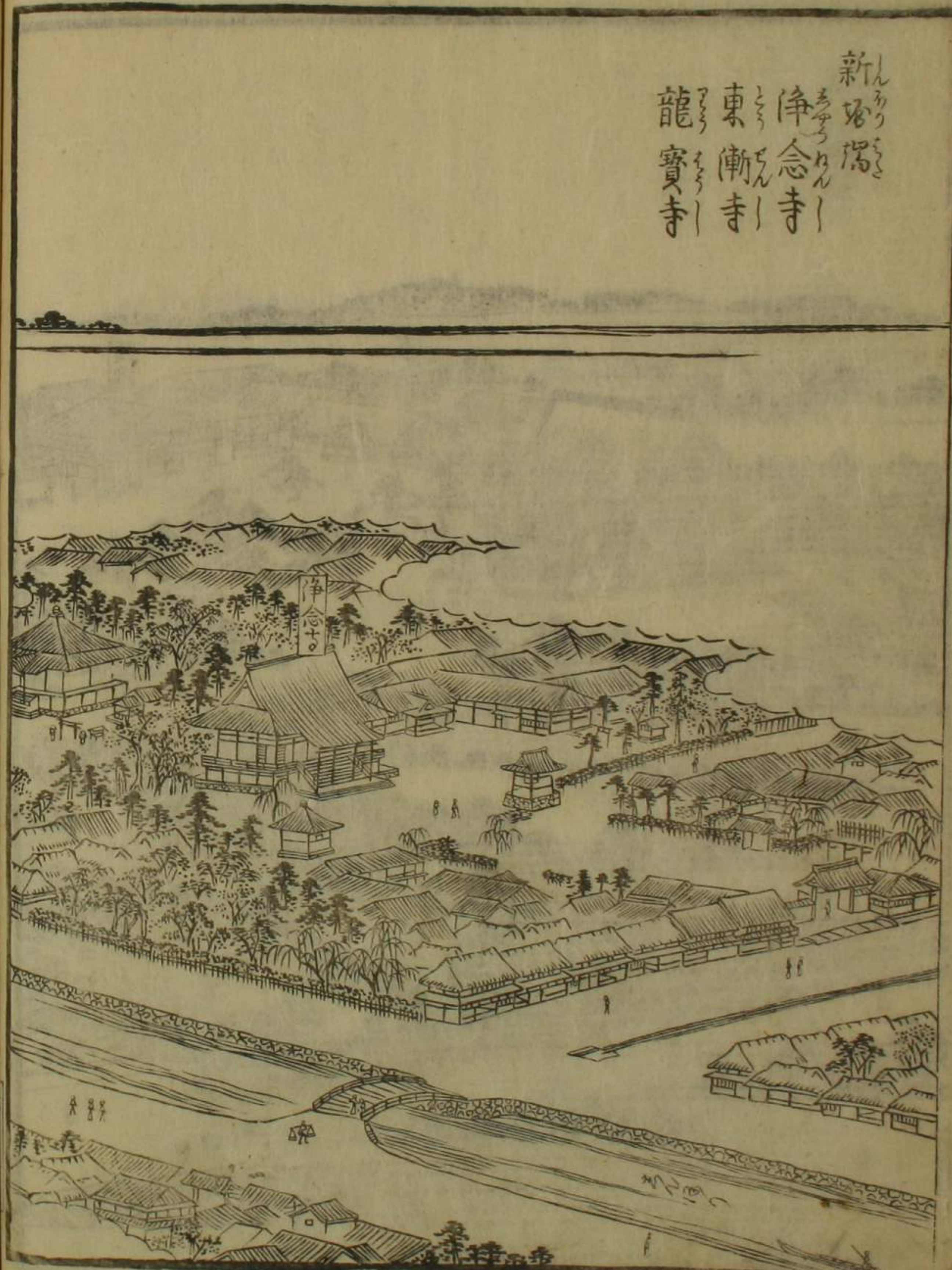
小稱され又寛永十五年今の所よと地をぬみ一其申法幢を多檀林小准と

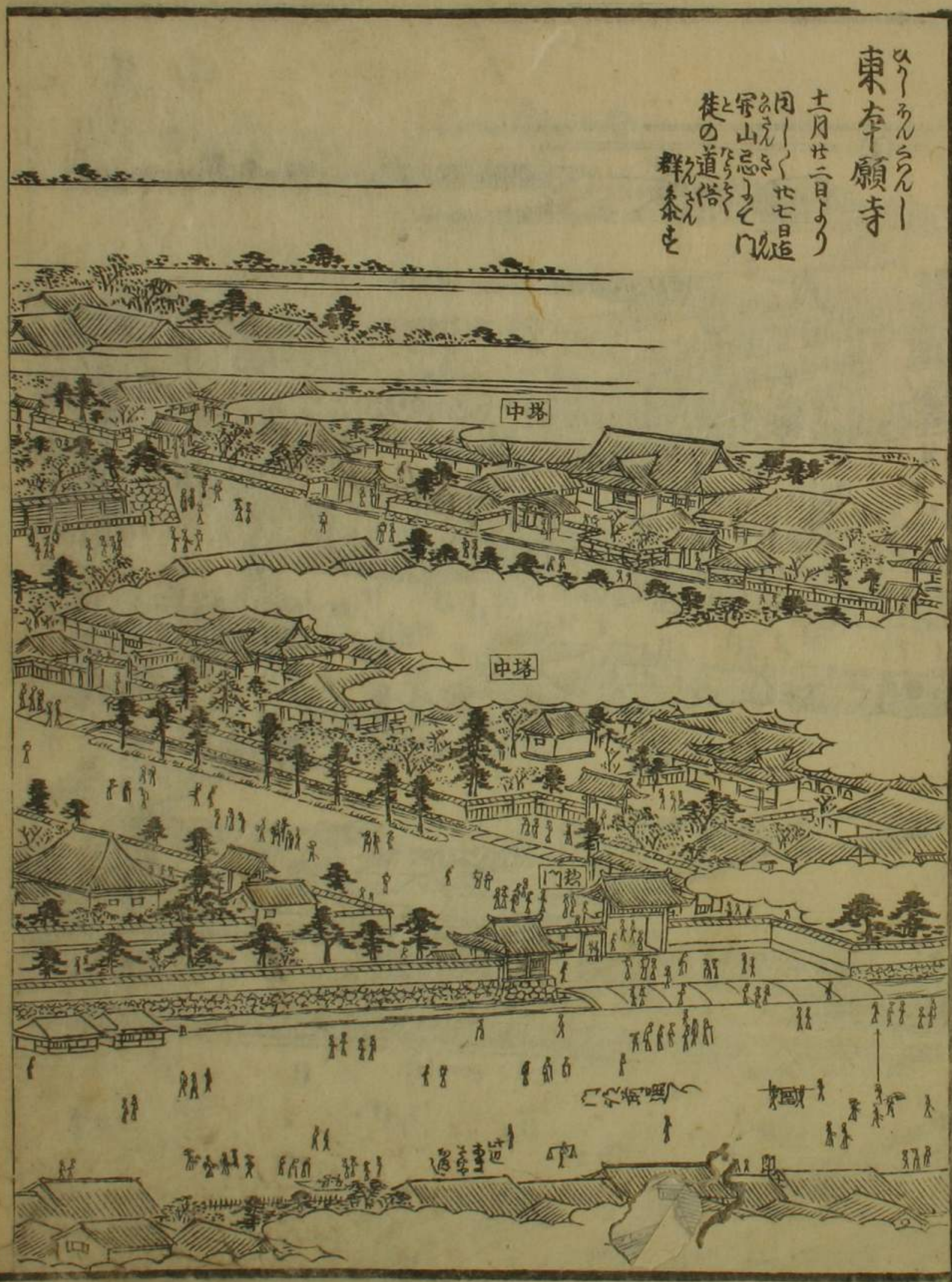


西福寺
さいふくじ



新
浄念寺
東漸寺
龍寶寺





東本願寺

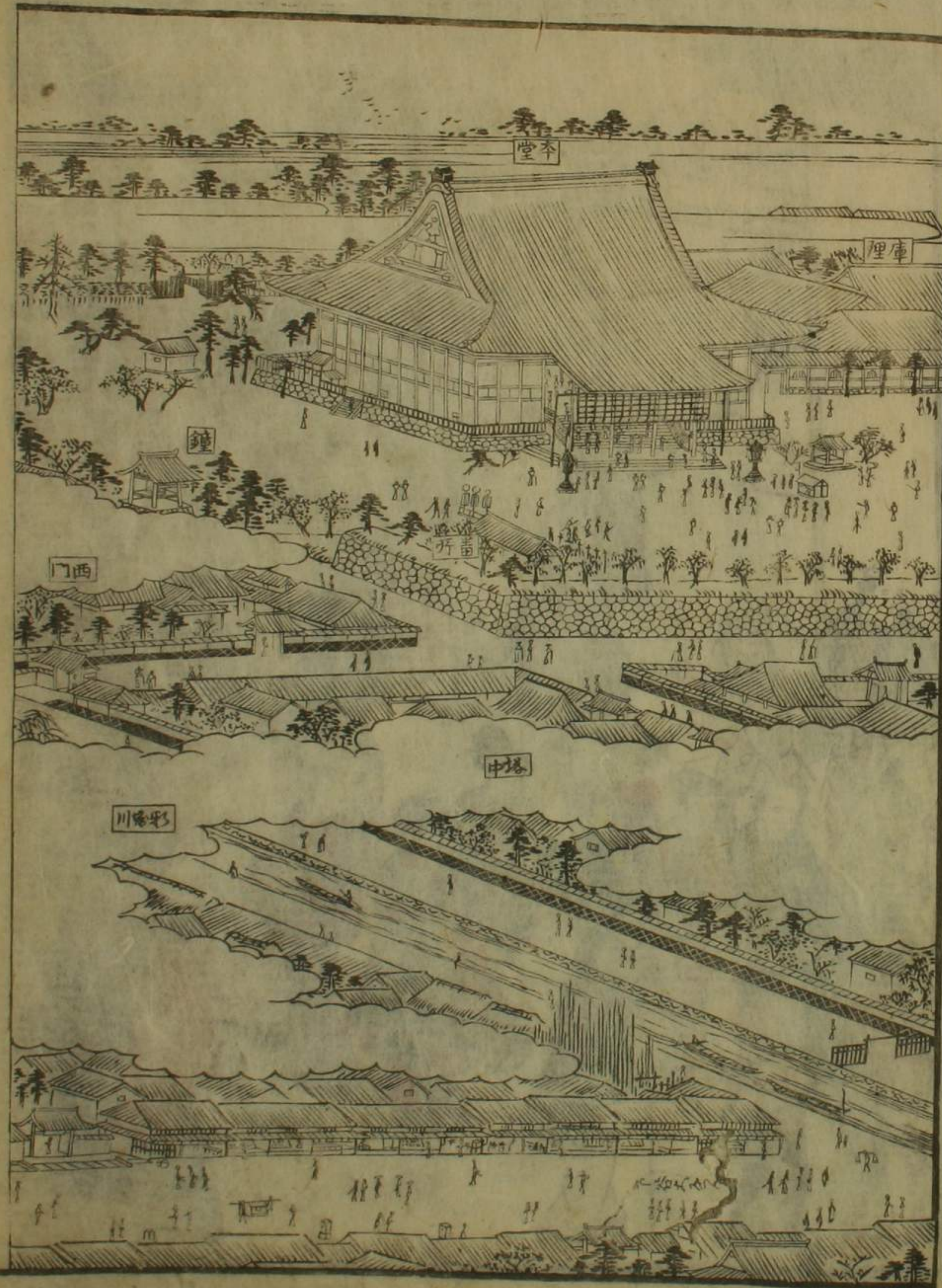
土月廿二日より
同く廿七日迄
宿山忌とて門
徒の道俗
群衆を

東照大権現宮神影 神祖并々 台徳公及び 賢雲尼の御壽影ともありせり
江島辨財天祠 辨財寺の御宇より奉遷の御像よりて弘法大師の筆ありと云り此の御宇
化用山常照院浄念寺 同所西福寺の北の通あり浄土宗宍山の性善上人
露体和尚よりて永禄年中の草創とて奉遷の阿弥陀如来の慈覺大師の他
作りぬの尊像と稱せ胎中小鑿 寛永十二年駿河臺より今の地に移る 境内に慈覺
銅等を入収む其長二尺三寸あり 觀音とよひ土中出度の 大師の像乃
後唐の天神等を安んず

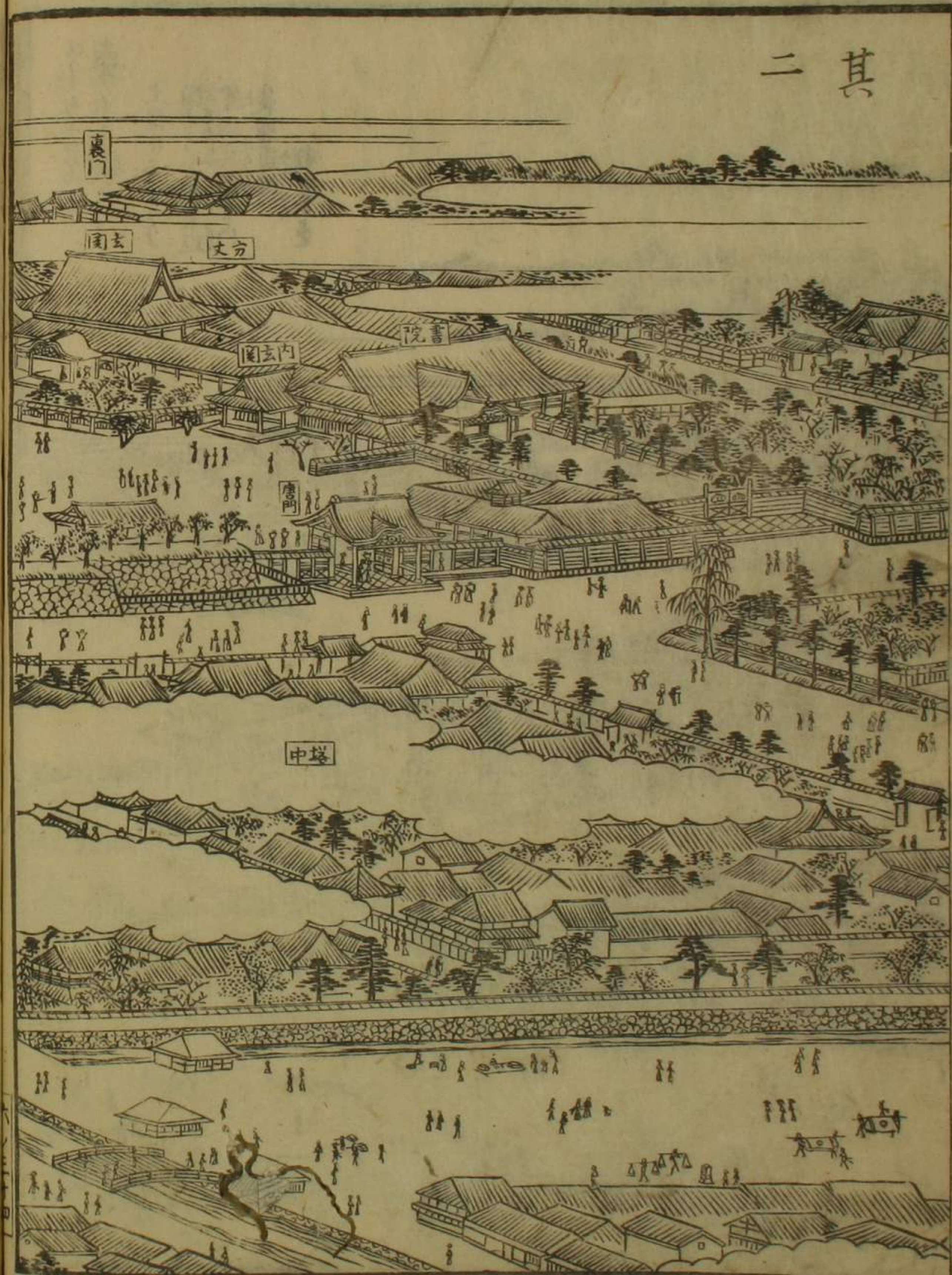
正保山東漸寺 醫王院と号し天台宗よりて東叡山小屬を浄念寺の北小
あり奉尊薬師如来の行基大師の作りあり 小十二神の像と並世傳はるる伊弉師と
秘に寄願ある者なり 宍山の慈覺大師よりて田道権再興と始御宇ありあ
くそくけを供するのあり

手向野 寛文の比戸田茂睡といふ人此野に草庵をむかひあつて住し一子伊弉師の
記を其地へ同不全法寺の境内にて成時支那並一子伊弉師ありされ全法寺ありと云
一子伊弉師といふ人此野に草庵をむかひあつて住し一子伊弉師の
或人云は現法寺の御宇よりて田道権再興と始御宇ありと云り

記を其地へ同不全法寺の境内にて成時支那並一子伊弉師ありされ全法寺ありと云
一子伊弉師といふ人此野に草庵をむかひあつて住し一子伊弉師の
或人云は現法寺の御宇よりて田道権再興と始御宇ありと云り



其二





東奉願寺

新堀端大通小あり元山教如上人其先奉山の住

徹たてしと豊臣家のをひとと順如上人の舎第と奉寺の門跡小定め

らと教如上人をの故るく退隱せしめ裏屋舗小並れしと

神祖竟ふ 召出され元祖上人の真影を御寄附ありて六条室町の末を

新の御堂屋舗成下し賜る夫より後東西とつひる

一寺仮建く京都より輪番所となり中門徒を勸化す

御旅館とるる

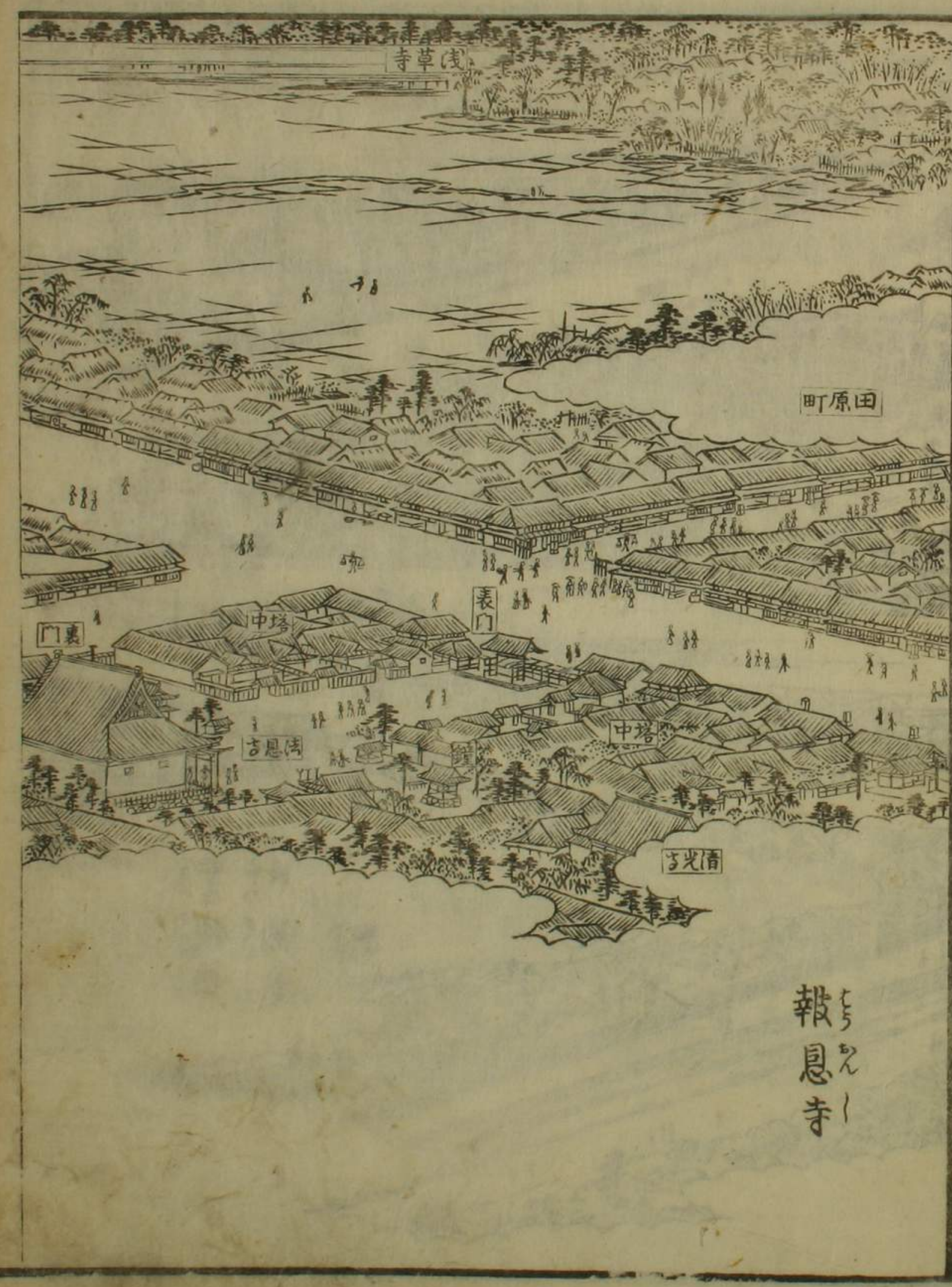
立花會 毎年七月七日真行せ 元山忌 毎年十一月廿二日より同廿八日まで同續院説法等あり

高龍山報恩寺 謝徳院と号し東奉願寺の東小隣る一向所なり

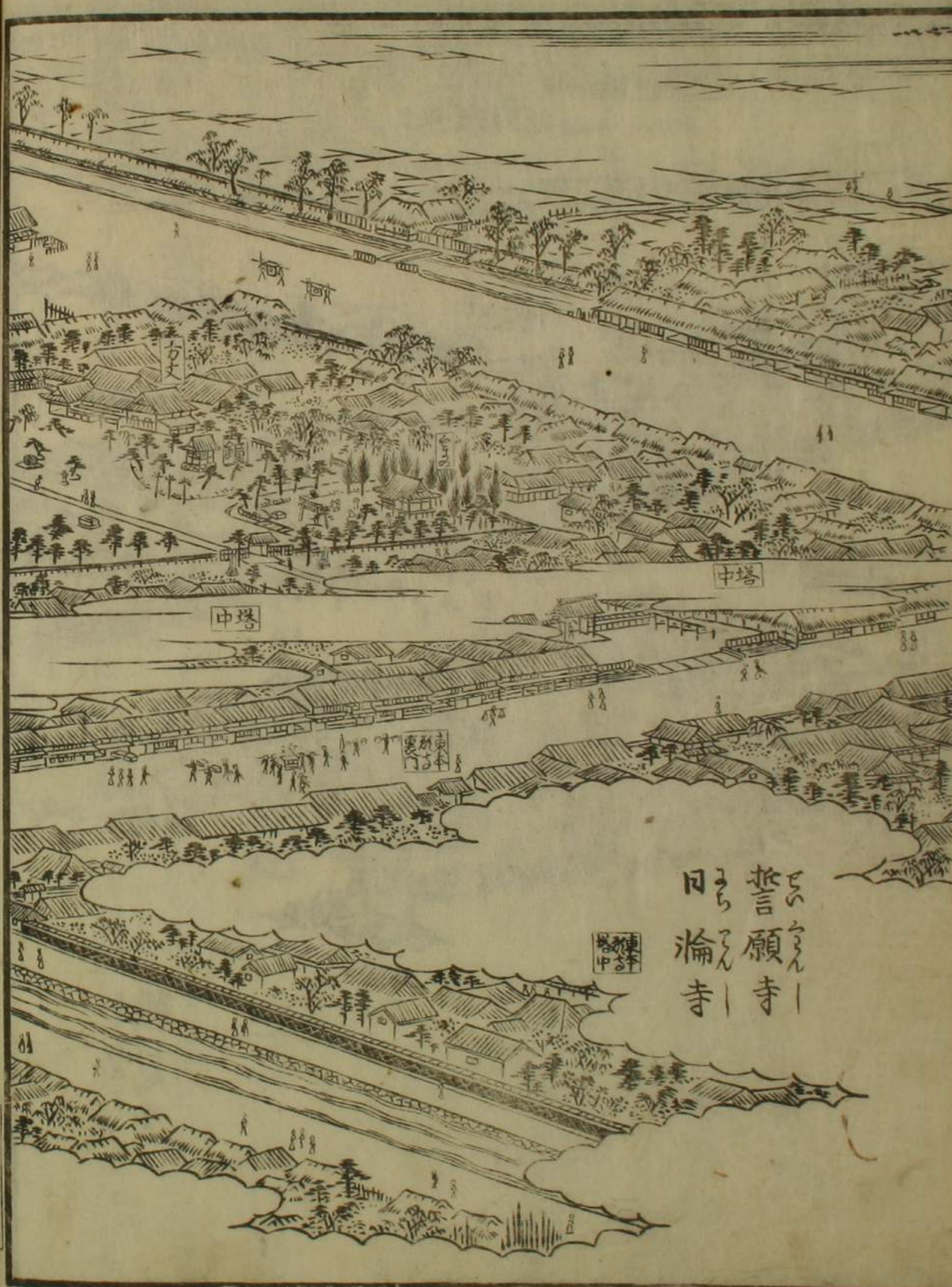
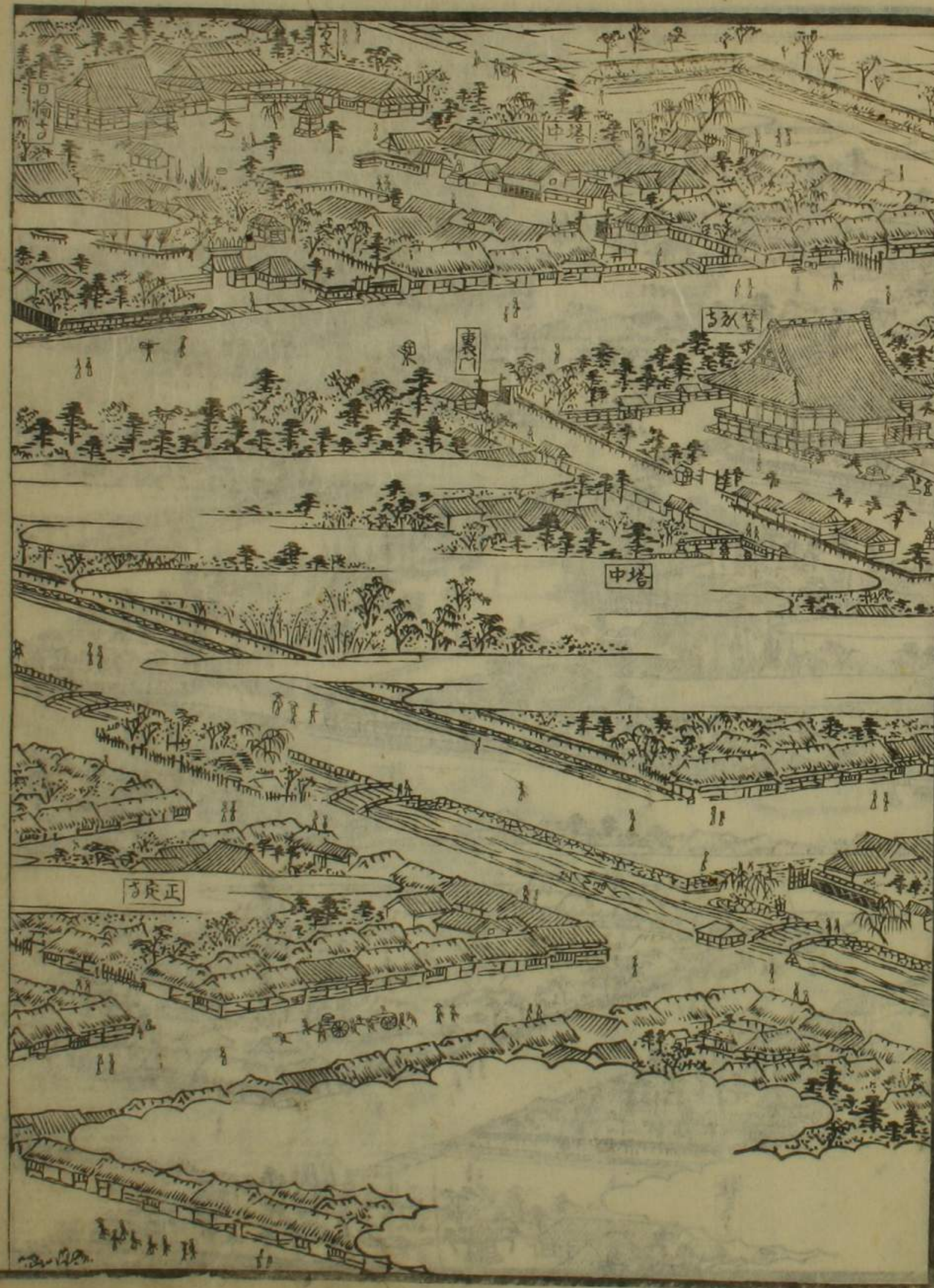
祖上人の遺跡二十四輩所の随一あり此あり下總國豊田の左横曾

根に有る數十世後結城の城主七郎左衛門晴朝の臣賀賀答何某

とつる者の為よ寺領田等を等と押領せしと終り武刃子後

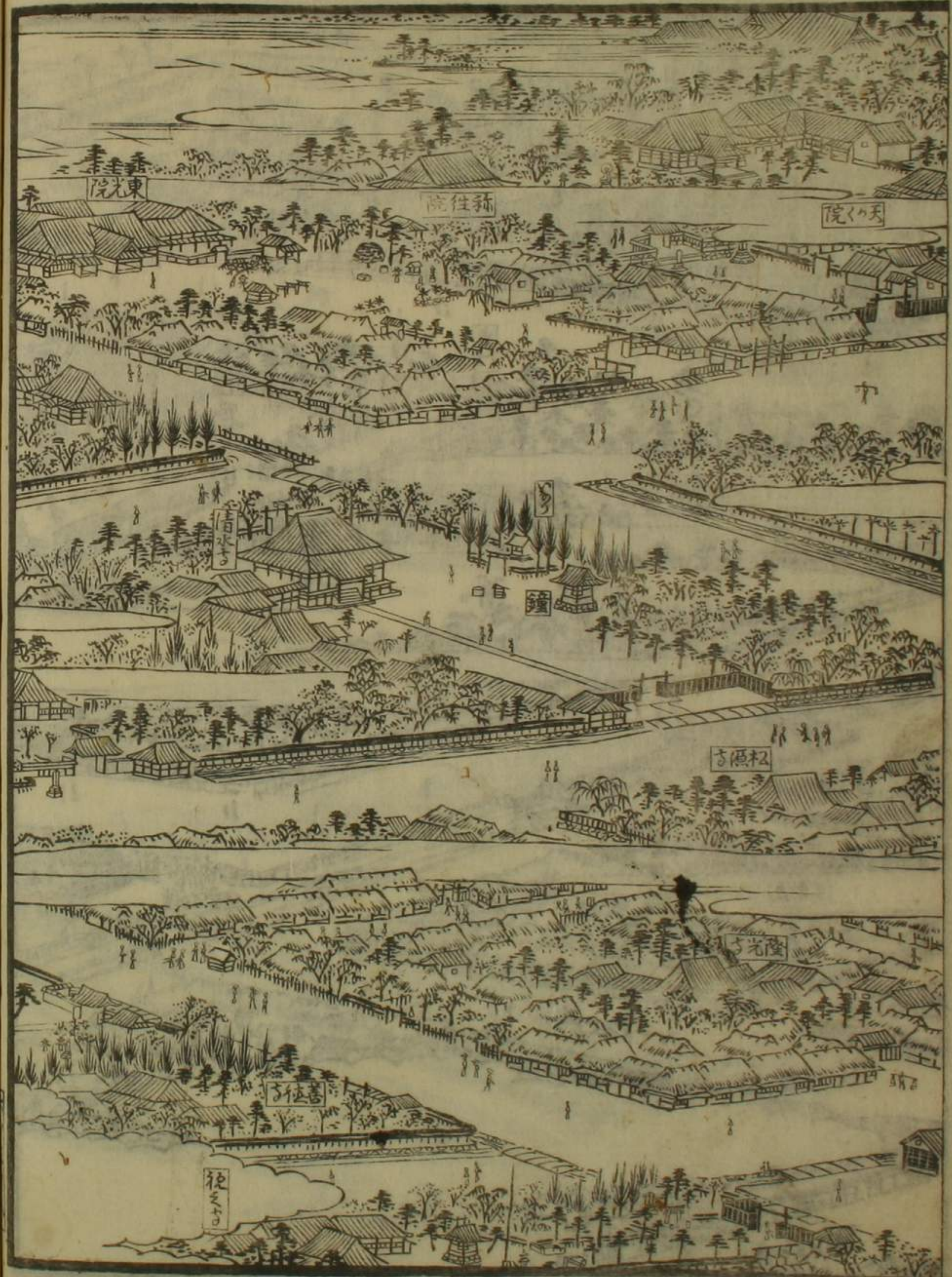
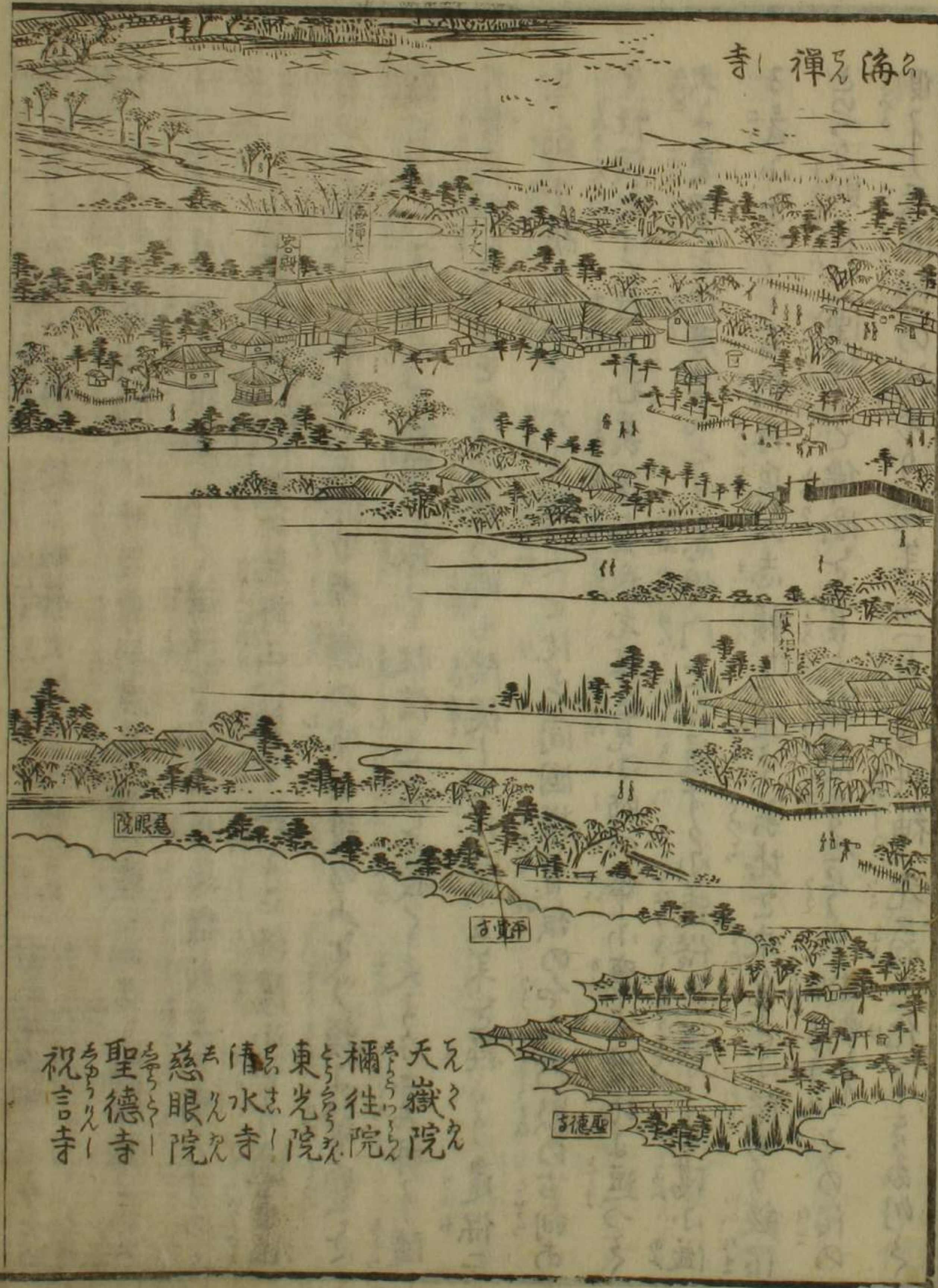


報恩寺



誓願寺
日輪寺





田小あり一後八丁堀よびり明曆火後今の地小あり
猶存 宍山性信房俗姓ハ大中臣常列鹿島郡の産之知名を與四郎といふ
天性多力勇悍心狼戾うく禮法を去るん唯漢獵殺生を事とするのこ
俗子悪五 十八年の春 紀の熊野山一詣り歸るさ洛陽小あり適東山
吉水よびひく法然上人依力奉願の肯を説めふを以頭よ鬢髪を
薙て佛門よいんを頼み依る性信と名を授く夫より寧鳥師り隨
て昼夜側をさうと師尤遷の時も陪從して凡二十五年を経り建保二
年師下總よ往く大よ群生を化と同國横曾根のや朽敗の古刹あ
る性信をて住しむ其後貞永元年竟小師の命小應一彼地よ逗つ
大よ東冥を化度せんと念佛門を弘通する小道俗元満一其場小溢
るふ小をひく古刹再興の志願を企て其地を求りこ小沼あり飯沼
とつり則是を湮埋して佛圖を營之報恩寺と号と 則當寺の 其の沼の
側り天満神の初あり同年十月七日此神老翁と化しさるる

傳法隨喜一師弟の約懇懃あり 又天福元年正月十日此神何
某の夢小告く曰く是より後永く師資の禮讓として御み洗の鯉魚を
報恩寺よ贈るへいと云 云依鯉魚二喉を捕て師小贈る師も又是を謝せん乃神
前小鏡餅二枚を供と 此勝峯の例今よある急慢あり毎歳正月十日飯沼天神の御み洗の
返れとて鏡餅を供と則性信も亦も天満宮の神前よ供し 建長二年の頃性信夢るる
同廿五日初蓮牙と真行の後鏡餅を授け後を同例とす 其地よ寺を營て法徳寺と号を中古
あつて奥列山中よ自過去生の枯骨得る 傳法の禪宗よ改め光徳寺と号を中古
詳あり 竟建治元年七月十七日下總よとむ寂を示して化壽八十九 以上宍山行の要
寺寶 親鸞上人壽像 有し拂子を持したは珠粒を持し嘉貞己未年性信坊洛陽小あり
彫刻あり性信よあふられ 五之佛舍利 奉尊名號 眞蹟あり横曾根光寺の
六十三歳の影像ありとつり 同九字名號 眞蹟あり 性信坊過
去生骨 夢想よ依る奥加土湯 教行信證一部六卷 親鸞上人の眞蹟あり貞永元
屬ありしとを今釋 山中よ得るとつり 蛇反釵 長六寸五分平の作とも又ハ不戒の作ともつり性信坊曾
當寺よ付てあり 根の古陰よ住する頃其陰よ惡龍すして剛しまれい害をさす
性信是反退くんとするよ力り空く年月とつり移るよあると死斗散の僧一人未だ山門の傍よ
熟睡を時よ池中より惡龍を被僧を呑むととるるよ懐中より寸釵花を被惡龍を吞く又

山の鏡が土まき足取りの悪龍を水中に遊ばせ佛信此龍を見れば雲と清く其の作の
慈を誇る住てはる金剛力士の足泥土は慢る佛あり則性信佛才叔とを得て悪龍を退りんとは後よ悪龍
雲を弄りて常の三傑の水中に入後その叔を證智比丘尼よ其の難信の尼ありとて鹿島一詣舟よ其の三
傑よさる小風烈しく傾更うて迷浪起て既よ船を覆さしとす時よ其才叔自れも水中入り入るは風
浪にさらちらるる舟も傾くや舟よ乗してはる前悪龍水中より 松岡茶碓 上石より
あられ彼才叔頭あり尼是を得て歸る是より後守り蛇及の叔とたりと
茶入 唐菜のすん切あり 袋に三重葉唐織 後 細代より 性信の他を不るりとたり其余因扇幣四りの力推刺の
田島山誓願寺 快楽院と号以東奉願寺の北あり浄土宗江戸四ヶ寺の一
室よりて山見蓮社東誓上人ぬり奉る弥陀如来の安阿弥の作りて
世よ齒吹如来と稱たり傳云往古建仁三年十二月廿八日元祖田光大師室小
在して集會念佛の時金像の弥陀尊佛堂の屏障小映現し頃更りて
没と大師感嘆して乃佛と安阿弥よ命して彼尊容を寫し御長三尺小
彫刻りし自冥眼ありて常よ持念しめ同三年十月十五日彼尊像惚
然として口と牙の音を發し親しく大師よ十念と授め示末面而遂
小啓齒微露路と息を吹語を發するの状よ鬚髯時の人稱して齒吹
の尊像と云 是よりして其の徳を以て明遍僧都の儀状等小 大師の滅後執觀心原

智上人 緣起よ小松内府重盛その子備中守平朝臣師盛の息なりとそ又幡隨意上人の負應の
行化僧よ源智上人の洛陽智息の弟二世たりとあり
ちよめ高野山は常行念佛の道場を創起し蓮華三昧院と号し
彼尊像と傳持して奉るとそ竟よ安永の未故ありて小杉よりとそ
ちよるるとそ
當寺往昔相功小田原ありとそ天正十八年 台命よ依る當國より
はされ文祿元年奉銀兩壹丁目よとそして始る寺地を賜ふ又慶長のころ
神田頃田所へ移され明暦の火後凌草より智地を賜ふ元禄中用譽龍
岳上人願經と蒙りて常紫衣を賜ふる爾未と降檀林の中より住徹す則
當寺の規模とそり
神田山日輪寺 芝崎道場と号を誓願寺の北の方より奉尊阿弥陀
如来の安阿弥の作りて當寺の時宗よりて當國弘法最初の道場とそ
信淨光寺 兵山真教坊の一遍上人第二世よりて往古諸國遊化の頂受田豊
是より
嶋郡芝崎村より小つらよひの最祠あり 神田明神是より今の神田橋御門を
の近舊名を芝崎村とつり 其

此よりして其の徳を以て明遍僧都の儀状等小 大師の滅後執觀心原
智上人 緣起よ小松内府重盛その子備中守平朝臣師盛の息なりとそ又幡隨意上人の負應の
行化僧よ源智上人の洛陽智息の弟二世たりとあり
ちよめ高野山は常行念佛の道場を創起し蓮華三昧院と号し
彼尊像と傳持して奉るとそ竟よ安永の未故ありて小杉よりとそ
ちよるるとそ
當寺往昔相功小田原ありとそ天正十八年 台命よ依る當國より
はされ文祿元年奉銀兩壹丁目よとそして始る寺地を賜ふ又慶長のころ
神田頃田所へ移され明暦の火後凌草より智地を賜ふ元禄中用譽龍
岳上人願經と蒙りて常紫衣を賜ふる爾未と降檀林の中より住徹す則
當寺の規模とそり
神田山日輪寺 芝崎道場と号を誓願寺の北の方より奉尊阿弥陀
如来の安阿弥の作りて當寺の時宗よりて當國弘法最初の道場とそ
信淨光寺 兵山真教坊の一遍上人第二世よりて往古諸國遊化の頂受田豊
是より
嶋郡芝崎村より小つらよひの最祠あり 神田明神是より今の神田橋御門を
の近舊名を芝崎村とつり 其

嶋郡芝崎村より小つらよひの最祠あり 神田明神是より今の神田橋御門を
の近舊名を芝崎村とつり 其

傍一宇の草庵と結ひ芝崎道場と号す 其後あるこの星霜を

狂々慶長年中神田明神の駿河臺へ迂るれ當寺の柳原のりこじ地を

賜ふ又明暦の頃今の地小うつる 寺傍に往右の由緒よりて今も隔年九月十五日

神田明神祭禮執行の時ハ當寺より上人以下衆僧等社頭より誦経念佛等種々の後法ありて後神樂を度しなるところを怪例とするが今も此より

光明山天嶽院

遍照寺と号を日輪寺の西に隣る浄社の法窟よりて天正

年中善空上人草創を宍山の圓蓮社滿譽上人と号せり奉尊手嶋觀世

音菩薩の唐佛よりて順徳帝建保年中相列鎌倉鶴岡の社僧良真傍都

入宋の時音王山能仁寺より將來せざる像ありて其後豊右衛門の幕下

津田勝重とせり者此像を感得を息え重伊賀國牛島と云ふ所より此

靈像の告よりて群賊の蜂起を治め武威を國中に振ひ依人民伏して

牛島殿と稱を其後元重當國に越さし頃故ありて當寺より收む則ち

内より島元重の墳墓あり當寺舊ハ浅草橋のらちよりありて明暦

圓祿の後此地に移る

一心山彌往院

同西に隣る捨世寺と号を浄土宗よりて奉尊阿弥陀

如來の丈六の座像よりて恵心僧都の作り脇に觀音勢至の二菩薩を

安置す宍山の幡蓮社白雲稱往上人 姓ハ飯田氏の野別

ありて慶長年中當國に移され湯島に地を賜ふ後復今の地小

引をり捨世一流常行念佛の道場よりて殊勝あり 當寺ハ田光大師

藥王山東光院

同西に隣る醫王寺と号を天台よりて東叡山に屬す本

尊溜瀉光如來の像の佛工春日の作り伊豆慈覺大師當寺を草創

ありて往古に顯密二教とも弘めて台宗一百八箇寺の總奉寺たり

中古右田道灌此靈像を崇敬して地に鬼門を置又其後慶長年中日光

御門主一品尊教法親王山門を動寺の松林坊賢海法印より仰て再興也

神祖其時院主と命ありては法長久の御祈禱よりて正五九月小大般若經轉

讀よりぬらる 此例今もあつたり慶長の頃近常盤橋の北より其後小傳より所より其地

をこて今も於茶師堂より浅草の地を移り明暦圓祿の後より

建長二年の秋
 性信坊爰想
 生の枯骨の不在と
 あり奥州信夫郡
 土陽山よる一の
 獵人あり師云く
 此松下は我過去生の
 枯骨あり汝
 是と答ふ
 得とせと
 獵人云く
 我業を
 みされり
 明日の糧
 ぬしと
 さす小貴の
 を依り性
 信坊獵者り



持ところの
 管う筈をとて
 石よは投すれり
 其箭をのれと
 發し一鹿を射し
 師則是をのめ
 獵人終ひ其れ
 のことを惜り
 松下を穿ら既
 枯骨を得りれ性
 信坊歡喜踊躍
 竟し其地を封て
 の精舎と管
 号けく法得寺
 とのいひ



大雄山海禪寺

同所新堀の小川を隔て西の方よりあり

みんが寺流の禪宗

一にて江戸四箇寺の一あり往古平親王将門總州相馬郡よりあり草創

する所の佛刹ありされと將門亡るの後年を歴て荒廢よをよひされり

鬼の栖とるりしを慶長の頃覺印和尚再興して寺を江府陽島の比小

移せり其頃

神祖和尚の道德を軍一め一尊致ありせられより後の寺院も輪奐と

して宗流殊に盛なり

清水寺觀世音菩薩

海禪寺の向の新堀端あり昔の浅草橋の内より

あり明曆火後今の比よりなる寺を江北山清水寺と号して天長年中

慈覺大師ひとりの勝地を求め天台法流の一院を建立ありてその

一の三禮ありて千々大悲の像を作り奉ると其昔の佛閣堂を

あり魏々たりし年去年末に星相を歷より堂塔大に破壊せ

しを文祿年間慶圓法印といつる沙門靈告成得て叡山正覺坊の探題

真盛僧正と相謀て堂宇を修營し昔は復りし

上宮太子堂

同所を丁より坤の方よりあり寺を用明山を徳寺と号す

浄土宗ありて本尊聖徳太子像の御自作ありといふ

天皇御悩の時太子神明佛陀は祈誓言にたよみ主孝の誠を擡めあり御悩ありて

上人念佛弘通の為此靈像を守り奉りて冥東より根根澤より一宇の

精舎を建立せし

其後亨徳二年忠蓮社加誓上人良

祐和尚中興して台宗を改めて浄家とて慶長の頃馬喰町馬場の辺小

除厄太子堂

同所北の方浄土宗天竺山慈眼院より女を徳太子四十

移され明曆の後今の比より引せたり當寺門の内より比藏尊の石像あり

相易一澤本堂彈誓上人の作りて當山十七世の住僧靈告よりあり土中を穿此比

萬年山祝言寺

同所南の方通を隔て西南の方よりあり曹洞流の禪宗

二葉の御時除厄の為自彫刻あり靈像ありといつる

明曆回祿の時奉りて先住僧徳誓上人深く是を悲を竟に靈告を

傳へて恐りての中島より此奉りて感得一再ひらき女を成りしといつる

みして良山存久和尚宛山たり往其江戸塚の辺視言材とつるありて天
文二十年の頃ち因道灌草創と天正の頃山号を賜ひ又此地は遷る

日蓮大菩薩 因所新寺所より羊丁となり西南の方より安立山長遠寺

小安置す侍云往古花洛南禅寺の普門禅師より天子を信教し

一朝日輪の中より二菩薩の尊影を拜を依て自業をとつて親是を摸

奉て靈告よりつて弘長元年辛酉六月遙く安東より豆別伊

東小より因六日蓮上人の謁し彼二尊の慈眼を乞求む則ち人冥眼

供粮ありて花押を添らる又禅師深上人の徳澤を慕ふなり大士

自肖像を造るて禪師のものと贈らる 禅師歸寂の後京

師要法寺よりつて又妙榮寺より安置せり故あつて文禄三年の

頃安寺より遷り 妙龍水 奉堂のたより傍に碑

神岡山幡隨意院 新知恩寺より浄家十八檀林の一室より奉

尊阿弥陀如来の安所弥の作あり

山幡隨意上人天正十年の秋越後高田の善導刹に在りて七日の間に

依り其の法思の乃ち捧るるの清泉ありとあり

宛山演蓮社智鑿言上人 幡隨意白導と号す相剌孫孫澤郷善

行寺村の産俗姓の川島氏より天文十一年壬寅十月十五日生る兒は

る時常に佛像を禮し妙門を教す九年より乃ちの頃出家せり

ひとくとも父母是を許を既して十一歳竟小因因玉繩邑二傳寺の範誓

上人に投り落髮授戒し幡隨意と号す爾来巧くを控歴し数回の年

序を詮宗要の玄微を究む 天正年中上の加館林の刺史藤原康政の請より

下徳圃宿の竜寺を草創し又 慶長七年壬寅 洛陽知恩院に住職

す此時紫服を賜り鳳闕に登り浄家の秘蹟を講と主上大に嚴感

あり因九年甲辰東武の招より再び此地小下向し神田の臺小

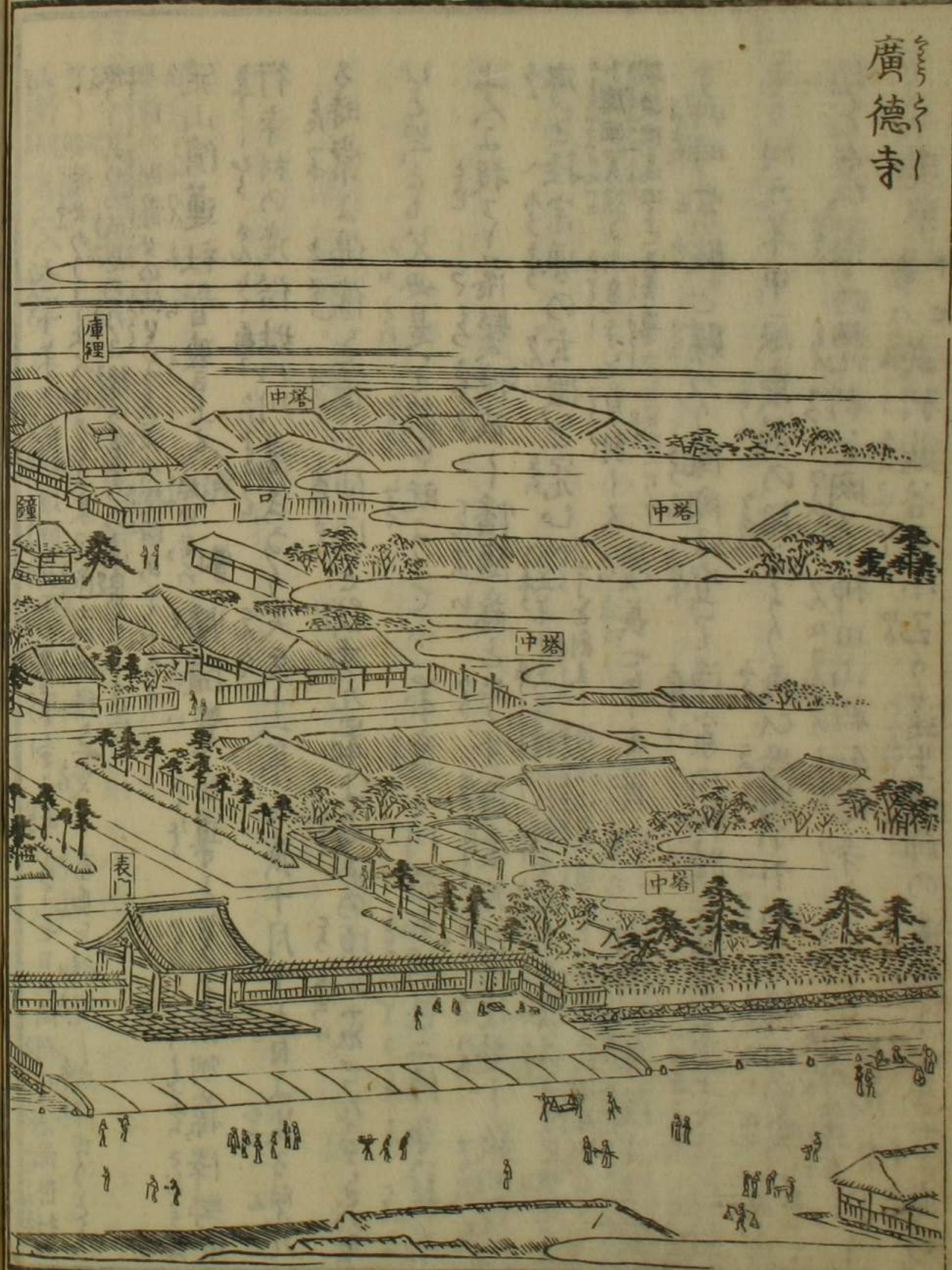
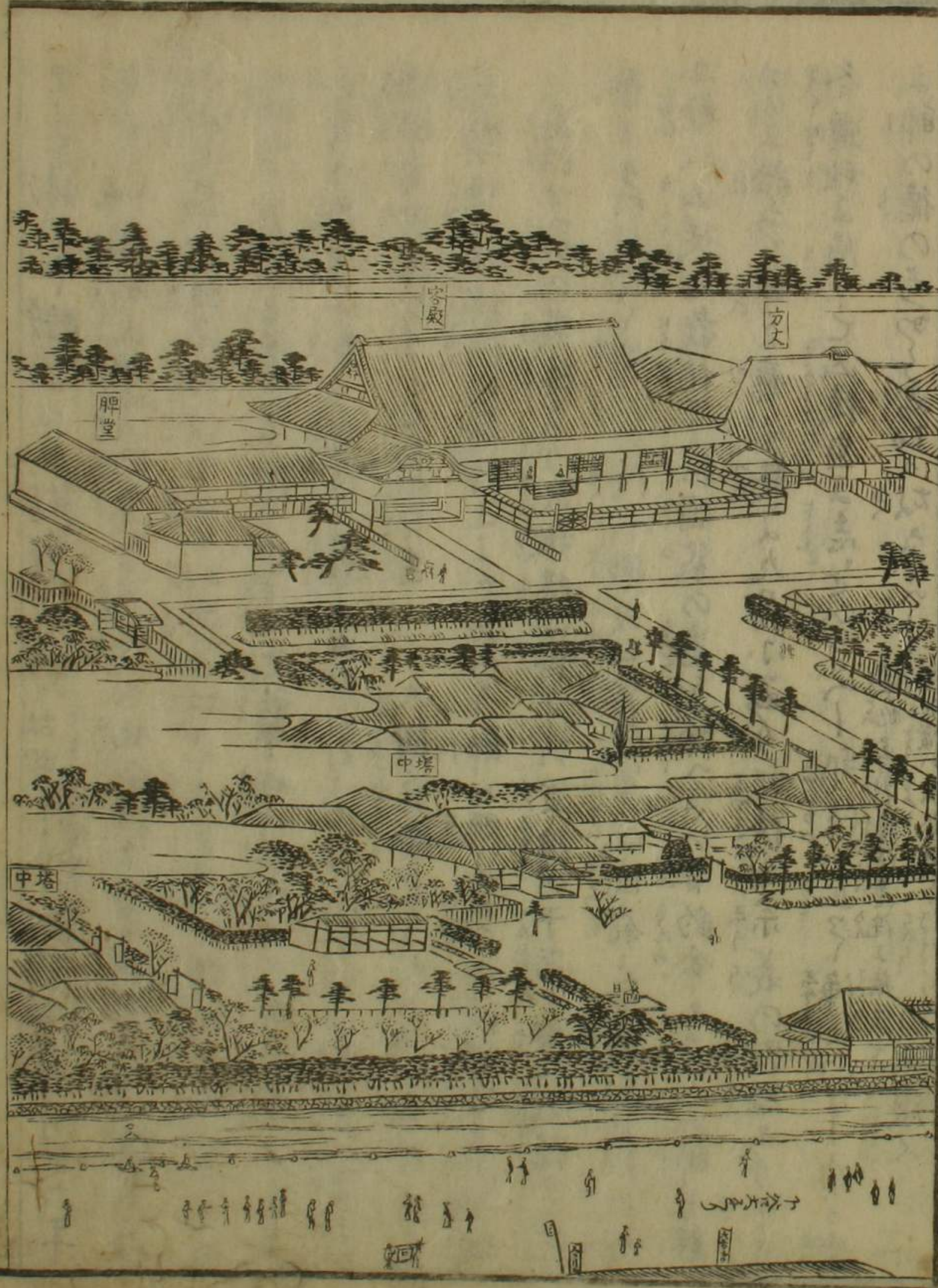
池をぬい一寺の林九刹を闕し 神田山新知恩寺と号す 因十

三年庚申 歳六 武列熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵あり

三年庚申 歳六 武列熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵あり

三年庚申 歳六 武列熊谷邑小より蓮生法師の遺跡より草庵あり

廣德寺



己一を轉々精舎と一修答寺と号台命よりりて金禪の袈裟を 同十六年
辛亥歳七十 勢列山田小入門寺を完基を勉小同十八年癸巳歳七 蠻夷の
凶賊九カ刃小發マヤヤム 邪法を弘め幻術を以て人を惑へ頗爾を傾んとせり
の北よりこれとも是と平治す小テ戈を動す時の國中の人民を塵小する
玉より高僧小命一正法マヤヤム 導しめむとらふマヤヤム 衆義一變し
幡隨意其器ありとて直小召止マヤヤム 大樹自命マヤヤム されて云く吾軍四
患ある時ハ必佛法の護持マヤヤム するとり師ハ既ハ天下の法將マヤヤム たり邪徒
と退治すこれの英雄あり又邪徒小對する軍將の干戈を揮ひ敵陳し向小
等一これの蜀江の陳羽織及以金の軍配團扇とを賜ひ急に彼地
小赴れ凶徒を教化せしめ國家の患を除へるの肯鈞命あり一師も辭
する語あり命ハ應し終マヤヤム 九カ刃小あり邪徒と宗義の對論あり一
各道理マヤヤム 歸し凶徒並志をひる一邪法を止す淨士門マヤヤム 入る實
一師の徳のちのちなるなりマヤヤム 其後又

軍配を扇の幡隨意院に藏すとのちのち
陳羽織の法保是を付たり

命よりりりて梵宇を創マヤヤム 立し觀音寺と号す有馬氏越前國九洲に秘を
今の三河山白蓮寺に在り 其
後崎陽小あり大音寺を辨マヤヤム 於竟マヤヤム 晩年よとて以紀列和牙山マヤヤム 於萬
松寺を建立しマヤヤム 住マヤヤム せられ一日微疾を市と上足意天和尚松川雲
巖の牙
二世のりマヤヤム 至り師の病床を訪ふ師大マヤヤム 喜ひ傳燈の法マヤヤム 主たるべとて未だ
傳法あり且諸弟マヤヤム 教誡し遂は親床マヤヤム 坐し筆を求め辭世の偈を書
しと云く白道運歩マヤヤム 數十年マヤヤム 以火消火難思術マヤヤム と書畢て筆を擲端坐
合掌しマヤヤム 高聲マヤヤム 彌陀のそるマヤヤム 号を唱へ眠り如くマヤヤム して化マヤヤム して映マヤヤム 小え
和元年乙卯正月十五日マヤヤム 歳マヤヤム 算七十四以上行化傳の
要と摘
信列善光寺燈明 寺所赤城山燈明寺とマヤヤム する台宗の寺マヤヤム あり有マヤヤム 公の
草創マヤヤム せり寺内マヤヤム 赤城明神と鎮マヤヤム せり
朝日山永昌寺 願成院と号マヤヤム せ下管大通マヤヤム あり淨土宗マヤヤム として鎮蓮社マヤヤム 尊マヤヤム 答言上人
を宗祖とマヤヤム 奉マヤヤム ず阿彌陀如來の運慶の作マヤヤム する觀音マヤヤム の慈惠大師の作マヤヤム せり
世は除厄の寺傳マヤヤム 云マヤヤム 雲マヤヤム あり天正年間マヤヤム 下管長者某其名今
草創とて同所長者



町とつるありとえおの頃今の比より引つりて明暦二年丙申松浦家の
母儀永昌院再興ありとあり則境内に長者の墳墓あり

圓滿山廣徳寺

同所あり大徳寺流の禪宗より始相如小田原

ありありと天正十九年江戸に遷され神田に遷るを賜ふ
其後寛永の未今の比に遷る

山と希叟宗芋禪師といひ

當寺の總門の名西の差野あり是近風火の難をよとてつりとも恙あり最書道の規
律とする呀あり詳は梅屋主人ありつり新斎夜話といひる草紙より

下谷稻荷社

廣徳寺の向の側あり故に俗に廣徳寺の稻荷と称す

是大なる誤り別名を正法院といふ祭神は蒼稻魂命より奉祀十一
面觀世音の行基大士彫刻の靈像ありとて中の鳥井小一は稻荷大

明神と書る額あり崇徳院公寛法親王の眞蹟あり拜殿は掲ぐる
同神号の額蓮花光院道恕の筆ありとて社祭れを隔年二月

十日は執行す下谷の鎮守と稱す



